

# 伊平屋島・野甫島における石碑・記念碑等の調査報告

石垣 忍・崎原 恭子・三枝 大悟

The investigation report of the monument in Iheyajima Island/Nohojima Island

Shinobu ISHIGAKI, Kyoko SAKIHARA, Daigo SAIGUSA

伊是名島・伊平屋島総合調査報告書、沖縄県立博物館・美術館 別刷

2019年3月15日

Reprinted from Survey Reports on Natural History, History and Culture of  
Izenajima and Iheyajima Islands, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

March, 2019

## 伊平屋島・野甫島における石碑・記念碑等の調査報告

石垣 忍<sup>\*1</sup>・崎原 恭子<sup>\*2</sup>・三枝 大悟<sup>\*3</sup>

The investigation report of the monument in Iheyajima Island/Nohojima Island

Shinobu ISHIGAKI<sup>\*1</sup>, Kyoko SAKIHARA<sup>\*2</sup>, Daigo SAIGUSA<sup>\*3</sup>

### はじめに

本稿は、沖縄県立博物館・美術館（博物館班）による総合調査事業に基づいて2016（平成28）年度から2018（平成30）年度に実施した「伊平屋島総合調査」の歴史分野の調査報告である。

伊平屋島は沖縄島の北西、那覇市から約117kmの海上に位置する島で、約20.66km<sup>2</sup>の面積がある。北東から南西まで約14km、幅は最も広い場所で約3kmの、細長い形が特徴である。山がちな地形だが農業が盛んで、稲作やサトウキビ栽培を中心とする農耕が行われてきた。伊平屋島の南西約500mにある野甫島は、面積約1.06km<sup>2</sup>の小さな島で、野甫大橋で伊平屋島と繋がっている。野甫島の地形は比較的平坦で、サトウキビ栽培を中心とする畑作が行われる。伊平屋島の字田名と字島尻には漁港があり、漁業やモズクの養殖が行われている。

琉球王国時代の伊平屋島・野甫島は、伊是名島や周辺の島々とあわせて伊平屋島とよばれ、廃藩置県後もこれを引き継いだ。1908（明治41）年に施行された沖縄県及び島嶼町村制を受けて伊平屋村と改められたが、1939年（昭和14）に新たに制定された伊是名村と分離し、伊平屋島と野甫島の2島で構成される伊平屋村として発足した。

伊平屋島の行政区分には、伊平屋島に字田名・字前泊・字我喜屋・字島尻、野甫島に字野甫がある。人口は、現地調査実施時点の2016（平成28）年7月末現在で1,265人（字田名290人、字前泊253人、字我喜屋328人、字島尻297人、字野甫97人）である<sup>(1)</sup>。

伊平屋島の各集落に伝わる伝統的な民俗行事は、研究対象や観光名物として取り上げられている<sup>(2)</sup>。また、豊かな自然環境や美しい夜空を資源として、マラソン大会等のイベントが催され、人気を博している。

### 調査の目的

当館が実施する沖縄県の島々に関する総合調査は1980（昭和55）年から行われており、本調査同様の石碑・記念碑等（以下、記念碑等という）の現状調査は、2009（平成21）年から竹富町域の竹富島・鳩間島・黒島・新城島の4島で行われた。記念碑等は、建立された場所等が内外からどのような事柄のために注目され、地域住民の手によって継承されてきたかを示す重要な歴史資料である。上記の島々とは遠く離れた伊平屋島・野甫島でも共通する調査を行うことで、記念碑等からみた県内の島々の

※1 〒901-2121 沖縄県浦添市内間 3-26-1 沖縄県立浦添高等学校

※2 〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課

※3 〒901-0392 沖縄県糸満市潮崎町 1-1 糸満市教育委員会

\*1 Okinawa Prefectural Urasoe high school, 3-26-1, Uchima, Urasoe city, Okinawa, 901-2121, Japan.

\*2 Okinawa Prefectur Culture and Tourism Sports Division Karate promotion section, 1-2-2, Izumizaki, Naha city, Okinawa, 900-8570, Japan.

\*3 Itoman City Board of Education, 1-1, Shiozakicho, Itoman city, Okinawa, 901-0392, Japan.

特徴を考える材料としたい。

本調査は伊平屋島・野甫島に現存する全ての記念碑等の現況を把握することを目的とした。拝所の鳥居や灯籠は石碑や記念碑とはいえないが、奉納年や奉納者が刻まれている場合があることから、記念碑等の悉皆調査を開始した竹富島調査から調査対象としている。

調査項目は時間的制約等のため、設置場所の把握、法量測定、碑文の確認及び書き起こし等に限った。個々の記念碑等の確認については万全を期したつもりであるが、調査漏れがある場合、一切の責任は調査者にある。

なお、文献調査や聞き取りによる建立の歴史的経緯等の記述については、確認できる範囲に限った。

本調査においては、次の方々にお世話になった。記して感謝申し上げます（氏名五十音順、職名等のご協力をいただいた当時のもの）。

沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員

宇佐美賢

伊平屋村教育委員会 主事 嘉手納知子

伊平屋村立野甫小中学校 教頭 永野正也

沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員

外間一先

## 調査の方法

調査は現地踏査により、1件ずつ調査シートに記入していく方法をとった。調査日は以下のとおりである。

2016年8月2日～4日 伊平屋島・野甫島

石垣 忍 調査区域：字前泊・字我喜屋

崎原恭子 調査区域：字田名

三枝大悟 調査区域：字島尻・字野甫

本調査の結果、後掲の伊平屋島・野甫島記念碑等集成にまとめたとおり、全75件の記念碑等を確認することができた。

## 石碑・記念碑等の記録と分布状況

### 〔伊平屋島〕

伊平屋島は伊平屋村の主島である。島内における集落の成立は田名村（現在の字。村制施行までのよび方）が最も古く、我喜屋村がこれに次ぎ、島尻村は我喜屋村から分かれた。以上の3集落は、1649（順治6）年頃の地名・石高等を示す「絵図郷村帳」など、琉球王国時代の史料に記載されている古い集落である。ただ字前泊のみ、廃藩置県後に沖縄島や伊是名島等からの移住者が田名村の一部に居住して集落を形成し、1909（明治42）年に行政上独立したものである。

公的機関の村役場や小・中学校、郵便局は字我喜屋にあり、村行政の中心となっている。他に、字田名と字島尻には漁港が、字前泊にはフェリーが停泊する港とターミナルがある。

### ○字田名

字田名の特徴は、字内の象徴的な場所に記念碑等が集中して建立されていることである。

「田名のクバ山」（植物）、「くまや洞窟」（地質鉱物）とともに、初めて伊平屋村内の県指定文化財（天然記念物）になった「伊平屋島の念頭平松」（植物）は、樹齢200年以上と推定されるリュウキュウマツである。1958（昭和33）年に琉球政府文化財保護委員会の、2016（平成28）年には国の天然記念物に指定された<sup>(3)</sup>。「日本の名松・100選」に選定され、年賀郵便絵はがきに描かれるなど、日本を代表する名木として知られている<sup>(4)</sup>。1993（平成5）年には念頭平松の周囲が「念頭平松公園」として整備され、伊平屋村の観光景勝地となった。公園敷地内に第5回、第6回、第7回伊平屋村まつりの名で村内出身者の誕生記念植樹を行った記念碑があることも、念頭平松が村の象徴である認識をうかがえる。

また字田名には、環境省が定める自然環境保全地域の都道府県自然環境保全地域として、沖縄県・伊平屋村が1980（昭和55）年10月6日付で指定した5件のうち2件（久葉山、後岳）があり、自然環境の豊かさをうかがえる。

さらに、現在の田名公民館や田名公園のある敷地

内にも記念碑が多く確認できた。『伊平屋村 田名字史』(以下、「字史」と記す)には、この敷地は、隣接する区域も含めて「ウザナムイ」とよばれ、もともと字田名の入口や字の人々の集合場所など字田名の要所であると記されている。田名公民館は2000(平成12)年度に建設の運びとなり、2001(平成13)年11月24日に式典並びに落成祝賀会が開催された。この公民館の落成を記念し、「(大田名節を)永年愛唱し継承する概念をもとに」、同日付で「大田名節の碑」が設置された<sup>(5)</sup>。ちなみに「字史」には、「大田名節」は田名ウシデーク(白太鼓)で謡われるものと紹介され、「古歌」の項目のなかにも「大田名節」として5つの歌(琉歌)が掲載されている。今回、字田名で調査・確認した記念碑のなかに、「大田名節」の全体もしくは一部が刻まれていたものが3件あったことから、「大田名節」が字田名の象徴として記念碑に刻まれた意識をうかがうことができる。田名公民館に隣接する「田名公園」は1995(平成7)年度の農村基盤整備事業で整備された。田名公園のグラウンド南側には「大田名の大地の碑」が建てられている。「字史」には、県営畑地帯総合整備事業の整備完了に伴い、「県の要望によって、地名と琉歌の募集が役員会にあり、多数の応募の中から地名を『大田名ぬ大地』、琉歌を『大田名ぬ大地 見事平地やい 平成の光 世々に残ち』として国吉真儀が、呈している。」という建立に至る概要が記されている<sup>(6)</sup>。

その他の記念碑等をいくつか特記したい。1971(昭和46)年に竣工した旧田名公民館の表札に添えられている寄贈者名には、立法院議員の宮城善兵の名前が刻まれている<sup>(7)</sup>。「字史」には、旧田名公民館が高等弁務官資金を投じて建設され、1971(昭和46)年2月26日に落成祝賀会が行われたと記されていることから、復帰前の公共事業を知れる興味深い表札であることがわかる。

また、字田名には村道開通に関する記念碑が2件あった。そのうちの1つである、久葉山付近から伊平屋島の西海岸にかけて延びる「田名アッチャビシ線」の開通記念碑には、開通に係る工事の概要が刻まれている<sup>(8)</sup>。「字史」には、陸上自衛隊によって道路工事が行われ、1976(昭和51)年に村道として開通し、その後も続けられた事業によって1983

(昭和58)年12月16日付で完成したことが記されている。もう1つの「前泊アサ線」は、字前泊からアサ岳山麓に広がる田畑地域を通して字田名まで続く村道である。1960(昭和35)年頃から砂利道路として利用され、2009(平成21)年に改良工事の完成を記念した碑である「古歌 大田名節」の碑が字田名側に設置された<sup>(9)</sup>。これらの記念碑は村道整備を知る手掛かりとなっている。

### ○字前泊

前泊の集落は、廃藩置県後に首里・那覇の士族達が生活の基盤を求めて居住し、田名村に屋取する形で形成された。明治中頃からは、伊平屋島の経済的な中心地として、首里・那覇や鹿児島から来た商人等も居住し、戸数が120戸余に達したため<sup>(10)</sup>、1909(明治42)年に行政区を字田名から分割して字前泊となった。この新たな字の誕生により、集落の拝所が必要となり、1916(大正5)年にシヌグ堂が正式に建立された。「シヌグ堂由来」や「字前泊創立百周年記念」の碑は字前泊の経緯を伝えるものとなっている。

字前泊の発展を支える前泊港は、背後に虎頭岩を擁し、グスク時代には屋蔵大主(琉球王国第一尚氏王統の尚巴志の曾祖父)の島統治の基盤となるなど、今日に至るまで島の交通の要となっている。

他に、字前泊の北西部海岸には、農林水産省が海岸保全区域として一帯を指定したことを示す標柱がある。

### ○字我喜屋

我喜屋村は現在の伊平屋島で2番目に形成された集落で、当初はウフンダ森(現在の我喜屋集落の西約1kmの地点)にあったが、7、800年前頃に上里(片隈神社付近)へ移動した。その時に屋蔵大主が来島し、この地に居住したとされる<sup>(11)</sup>。上里の南方1kmの海岸に、屋蔵大主を葬った屋蔵墓があり、明治末頃までは、字我喜屋、字島尻両集落の住民が清明祭の時に御願を行っていた<sup>(12)</sup>。

伊平屋村我喜屋の神あしあげとノロ殿内は、古くから木造茅葺き屋根であったが、明治中頃に木造の瓦屋根に改築された。1953年(昭和28)年に拝所の神様を片隈神社に統合したので、小規模の鉄筋コン

クリート半スラブ瓦屋根に改築して現在に至る<sup>(13)</sup>。

また、伊平屋村立伊平屋小学校と伊平屋村立伊平屋中学校も同地区にあり、同校の児童生徒及び教職員、同窓生に関連する記念碑も設置されている。特筆すべきは1940（昭和15）年に建立された伊平屋小学校の「二宮尊徳先生幼時之像」で、村内では一番古い記念碑等であると思われる。この像は当初、1940（昭和15）年5月11日に、南洋からの帰国者である西江清次が寄贈し、建立されたものだった。しかし、像は戦時中の1944（昭和19）年に、金属供出のために撤去され、戦後の1972（昭和47）年3月23日に、再度西江清次が寄贈したことで再建された<sup>(14)</sup>。像の台座の前後にある銘板（「二宮尊徳先生幼時之像」、「皇紀二千六百年 帰朝記念 字我喜屋出身 寄贈者 西江清次」と記されている）が1940（昭和15）年建立時のものかどうかは不明だが、戦前の伊平屋村域の教育や移民・出稼ぎの様子を知る貴重な資料といえる。

慰霊碑に関係するものとしては、沖縄戦から25回忌にあたる1969（昭和44）年に日露戦争からアジア太平洋戦争までの村出身の戦没者を慰霊する慰霊塔「いへやの塔」が、1996（平成8）年には米軍上陸のモニュメントが建立されている。

その他、村の発展に寄与した山中貞則を顕彰する銅像、村民憲章碑、交通安全宣言なども確認できた。

なお、字我喜屋の記念碑等には、他にアンナ御殿の標柱、ガンザ御殿の標柱、非核平和宣言の村の碑、友愛広場銘板があることを把握しているが、調査時に実見することができなかった。

## ○字島尻

字島尻の特徴には、多くの拝所に改築を示す記念碑が建立されていることが挙げられる。

集落北の高台にある「島尻区シヌグ毛移設工事」の碑は、戦前までシヌグ（子どもの健康祈願行事）が行われた場所に建立されている。ここはしばらく畑となっていたのを、元どおり復元したものである<sup>(15)</sup>。「島尻区観音堂改修工事」の碑がある観音堂は、航海安全と大漁祈願の拝所で、コンクリートで造られた小さな祠があったが、瓦葺き屋根の建物に改修された<sup>(16)</sup>。この2つの拝所に関わる工事は、どちらもふるさと創生資金事業を活用して行われ、

2001（平成13）年12月に似た形式の石碑が建立されている。

島尻区殿地は祝女<sup>ノロドゥンチ</sup>殿内ともいい、ノロがない字島尻の祭祀を執り行うため、集落外からやってくる神職の女性が滞在した場所である<sup>(17)</sup>。島尻区神社は1940（昭和15）年に村の神様を祀るために建立された神社である。どちらも1999（平成11）年12月に現在のように改築され、類似する形式の石碑がそれぞれに建立された。これら2組の拝所に関する石碑には、施工を担当した企業の名が刻まれており、いずれも字島尻にゆかりがある<sup>(18)</sup>。

島尻区殿地と同じ敷地にある伊平屋村島尻の神あしあげは、伊平屋村我喜屋の神あしあげとともに、1977（昭和52）年7月11日付で県指定有形民俗文化財に指定され、1990（平成2）年に同じ形式の標柱が設置されている。

その他の事例について、いくつか特記する。

「伊平屋小学校発祥之地」の碑は、1881（明治14）年に島尻簡易小学校が設置されたことを示している。簡易小学校は当初、島尻村にあった島尻仮屋（琉球王国時代以来、伊平屋島の役人や、伊是名島にあった伊平屋島番所の役人らが使用した役所・出張所）に置かれ、翌年に島尻集落内に校舎を建てて移転した。仮屋は1897（明治30）年に廃止され、小学校は数度の改名を経た後、1901（明治34）年に我喜屋村に移転したため<sup>(19)</sup>、当時を忍ばせる痕跡は当碑のみであるが、この時代に、現在の字島尻が地域行政の中心として公的機関を設置する場所であったことを伝えている。

個人の顕彰碑は「名嘉千松・諸見守蔵両翁頌徳碑」のみである。名嘉千松は1897（明治30）年から1906（明治39）年まで伊平屋島の初代島長（現在の村長）を務めた。行政機構の変革時期にあって、機構を整備して人々の不安を取り除き、産業振興にも力を注いだという。諸見守蔵は1907（明治40）年に島長に就任し、1909（明治42）年の村長への職名変更を経て、1918（大正7）年まで務めた。当時、伊平屋村の人々が高利貸しに悩まされていた状況を受けて、1909（明治42）年に無限責任伊平屋信用組合を設立して低金利での融資を行い、人々の生活の回復を図った<sup>(20)</sup>。頌徳碑はこれらを讃え、城間喜平（1958〔昭和33〕年から1962〔昭和37〕年

まで伊平屋村長、同年から1974〔昭和49〕年まで伊平屋村議会議員及び議長を務めた。勳五等瑞宝章受章<sup>(21)</sup>が字島尻の人々とともに建立したものである<sup>(22)</sup>。なお、城間は伊平屋村内において、他にも複数の記念碑等を建立している。

その他、字島尻は、東西の海岸が前泊海岸同様に農林水産省の海岸保全区域に指定されており、この標柱がある。

「野甫大橋開通記念碑」は字島尻側にあり、字我喜屋に銅像がある、開通当時の沖縄開発庁長官山中貞則によって揮毫されたと思われる。野甫大橋の建造は野甫橋梁整備事業において行われ、1972（昭和47）年10月5日に着工、1979（昭和53）年3月23日に完成した<sup>(23)</sup>。同年に当碑が建立されたが、幅員の狭さや高度の低さ、塩害の進行等を理由に1999（平成11）年度から橋の改築工事が行われ、2004（平成16）年3月25日の開通に伴い<sup>(24)</sup>、碑も移設された。

なお、慰霊碑は字島尻にはなかった。また、集落北西にあり、古くから人々の生活用水として使われてきた井泉である上之川<sup>イヌカ</sup>は、2003（平成15）年に改築された際、白御影石で造られた覆い屋に「上の川 イヌカ」と刻まれたが<sup>(25)</sup>、その形状から記念碑等には含まなかった。

### 〔野甫島〕

野甫島は1島1字で構成されており、字野甫は字田名・字前泊・字我喜屋同様、琉球王国時代から続く古い集落である。人家は島の南から東にかけて広がる。

### ○字野甫

字野甫には伊平屋村立野甫小中学校があり、関連する記念碑等として「師弟同行」の碑、「校歌（野甫小中学校）」の碑がある。また、校門脇にある小門の門柱には、校庭側に「寄贈」とある銘板がはめこまれている。

野甫小中学校の校歌は、伊是名島出身の教師で、従七位勳五等双光旭日章を授与された中本正義が作詞・作曲した。中本は伊平屋小学校の校歌や、ハンタ毛節の作詞・作曲も担った<sup>(26)</sup>。集落東の高台にある「ハンタ毛節」の碑に、その事跡が刻まれ、中

本の顔写真も黒御影石の加工で表現されている。

慰霊碑は集落の北西、グンサナ森とよばれる高台の個人宅敷地に3件ある。これらは戦時中の1945（昭和20）年3月に、特攻隊員として鹿児島県の知覧から出撃した飯井敏雄の特攻機が海上に墜落し<sup>(27)</sup>、伊平屋村の人々に助けられたことを縁に<sup>(28)</sup>、飯井が戦後に字野甫に移住した後、他の特攻隊員を慰霊するために建立したものである。

字野甫にはいくつかの拝所があるが、字前泊のシヌグ堂や、字島尻の各拝所に見られるような、拝所名や改築の由来などを示す記念碑等はほとんどなかった。ウフマーガーという井泉が唯一の例外で、つるべを用いるために立てられた、2枚の板状の部材の間から見える位置に「御産土井戸ノ起源」の碑が建立され、井泉の由来や歌が刻まれている。字野甫は湧水が少なく、ウフマーガーは数少ない水源の1つであった。1960年代まで生活用水として使われた後、現在に至るまで、旧暦9月9日に字野甫の役員による井戸拝みが行われるなど、人々の信仰の対象となっている<sup>(29)</sup>。

辯之神社には銘文がない鳥居がある。この神社は戦後、もともと辯之嶽という拝所がある場所に複数の拝所が統合され、1977（昭和52）年に拝殿が建立されたものである。鳥居は2001（平成13）年より後に建て替えられたと思われる<sup>(30)</sup>。

他に、野甫港の船着き場に標石があり、野甫小中学校の卒業生の筆による「野甫港」の文字が刻まれている。

記念碑等の建立場所は、ほとんどが集落内だが、「御産土井戸ノ起源」の碑と「末吉福吉の歌碑」は集落外にある。

## 石碑・記念碑等の傾向

調査結果を元に若干の考察を行う。

### (1) 建立年代について

伊平屋島・野甫島の記念碑等の建立年代をみると、全75件中、昭和戦前期（1926～1945年）1件（約1.3%）、昭和アメリカ統治期（1945～1972年）4件（約5.3%）、本土復帰以降（1972年～）59件（約78.7%）、不明11件（約14.7%）である。

建立年代が不明なものも戦後の建立と思われる、1件を除き全てが戦後に建立されたといえ、特に本土復帰以降に集中している。戦前建立の1件は、先に紹介した伊平屋小学校の「二宮尊徳先生幼時之像」である。銘板が建立当時のものであるかは不明だが、ここでは戦前のものとして計上した。

従前の竹富町域4島の調査における、近代に建立された記念碑等にも、同様に皇紀2600年を記念するものとして、竹富青年団が設置した「紀元2600年記念」のコンクリート銘板がある。日本本土の紀年行事が沖縄の離島にも及んでいたことを示している。

建立年代が明確な事例に限り、戦後の建立数の推移をみると、1960年代が3件、1970年代が4件、1980年代が7件、1990年代が14件、2000年代が13件と、1990年代以降の建立が目立つ。

## (2) 各地域における記念碑等の数量について

伊平屋島・野甫島の地域別に記念碑等を集計すると、字田名20件(約26.7%)、字前泊8件(約10.7%)、字我喜屋24件(32%)、字島尻12件(16%)、字野甫11件(約14.7%)である。念頭平松等の既存の指定文化財を多く有す字田名と、村行政の中心である字我喜屋での記念碑等の多さが目立った。

一方で、人口と記念碑等の数を見比べると、伊平屋島の各集落の人口は250～330人ほどなのに対し、字野甫の人口は3分の1ほどである約100人であるにもかかわらず、記念碑等の件数は字前泊より多く、字島尻と同程度である。字野甫の記念碑等の建立者は、野甫港の標石以外はいずれも公的機関ではない地域住民(飯井のような移住者も含む)とみられ、地域に関する事柄を記録・継承しようとする動きの強さをうかがえる。

## (3) 記念碑等の分類について

分類は、当館が行ってきた従前の調査の結果を踏まえつつ、今回の調査の状況に合わせて名称を変更する等した。具体的には次のとおりである。

- ①記念碑…周年行事、工事、受賞等の、記念すべき事柄を周囲や後世に伝えることを目的とするもの。
- ②説明板…名所等を一般に紹介することを目的と

し、経緯、由来等を書き示したものの。従前の調査では「説明『版』」と「説明『板』」があったが、意味の分かりやすさから後者とした。「由来碑」もあったが、目的は同様と捉え統合した。

③標柱・標石…②と同様の目的を有すが、書き示す内容が名称、日付等ごく限られたもの。従前の調査では「標柱」とされたが、形状が限られるため名称に幅を持たせた。

④歌碑・詩碑…琉歌、和歌、詩等を書き残すことを目的とするもの。従前の調査では「歌碑」とされたが、詩等も歌同様に作者の心情を表すものとして含めた。

⑤鳥居…神社や拝所の入口を表す目的で、鳥居の形を表すもの。

⑥灯籠…信仰の表現や景観の美化を目的に、灯籠の形を表すもの。

⑦慰霊碑…戦争や災害等で失われた命に敬意を示し、慰霊し、悲しみなどを後世へ書き残すことを目的とするもの。従前の調査では「慰霊之塔」の名称もあったが、統合した。

⑧顕彰碑…地域の偉人や恩人を顕彰することを目的とするもの。従前の調査では「顕彰碑」とともに「胸像」、「頌徳碑」もあったが、目的は同様と捉え統合した。

⑨憲章・宣言…自治体等が掲げる宣言等を公告することを目的とするもの。従前の調査にはなかった項目だが、本調査では他の項目にはそぐわない事例があったため新設した。

従前の調査では、他に「登録版」「塔」「梵鐘」「石像」があったが、該当する事例がないため取り上げなかった。本分類は従前の調査と今回の調査を踏まえて作成したもので、今後の事例の蓄積により随時変更していくべきものであることを付け加えておく。

本稿においては、記念碑等の銘文の内容、外見等から、75件全てを①～⑨の分類にあてはめた。ただし、9件の記念碑等は2種類の分類に該当したため、延べ84件として算出した。

分類上、最も多かったのは記念碑28件(約33.3%)で、標柱・標石16件(約19%)が次ぎ、歌碑・詩碑14件(約16.7%)、鳥居と慰霊碑がそれぞれ7件(約8.3%)、説明板が6件(約7.1%)、

顕彰碑が3件（約3.6%）、憲章・宣言が2件（約2.4%）、灯籠1件（約1.2%）と続く。地域の歴史や文物を広く知らせることを目的とする点で共通する記念碑、説明板、標柱・標石を合計すると50件（約59.5%）に上り、全体の半数を大きく上回った。一方、拝所に付随する鳥居や灯籠は、竹富島では全体の19.8%、鳩間島・新城島・黒島では29.4%に上ったのに対し、伊平屋島・野甫島は合計約9.5%と圧倒的に低い割合を示した。また、顕彰碑が占める割合は鳩間島・黒島・新城島の3%とほぼ同等で、竹富島では全体の約12%を占めていたことの特異性を強調する結果となった。

上記分類に加えて、伊平屋島・野甫島の記念碑等の種類の特徴として、次の2点を挙げる。

#### ①交通関係の記念碑等の傾向

今回の調査では交通関係の記念碑等について、道路整備関係4件、港湾関係1件、航空関係1件の合計6件が確認された<sup>(31)</sup>。このうち、1978（昭和53）年の「東線道路建設記念碑」と1983（昭和53）年の「田名アッチビシ線村道開通記念碑」は、いずれも伊平屋島の海岸沿いに整備された村道に伴う記念碑である。『伊平屋村誌』には、伊平屋村西海岸線の一周道路の建設について、「難工事で、工事資材費や、労務賃等莫大の経費を要する」と記されている。急峻な地形を伴う伊平屋島海岸部における道路工事の難航さがうかがえる。また「野甫大橋開通記念碑」では、銘文に「離島村の離島として二重の離島苦」を背負う野甫島の地域特性が示されており、陸上交通の整備に対する強い思いがうかがえる。

竹富町の交通に関する記念碑等として、竹富島・黒島・新城島・鳩間島のいずれにも火番盛の標柱・説明板があり、黒島には「日本の道100選の碑」、鳩間島には郵便局や灯台関係のものがある。竹富町の各島では海上交通に関する記念碑等が目立つ一方、伊平屋村では陸上交通の整備に関する記念碑等が結果的に多かった。ただし、記念碑等は確認できなかったものの、伊平屋村にも久葉山の灯台（字田名）や、腰岳アーガムイにある遠目番（字我喜屋）、賀陽山東麓の火立て屋（字島尻）、野甫島南端のチジ石（字野甫）など、海上交通に関する施設や史跡

があり、今後文化財指定による保存活用も検討されている。

#### ②自然環境に関する記念碑等の充実

伊平屋村には国と県の各指定天然記念物である伊平屋島の念頭平松、県指定特別記念物である字田名のクバ山、くまや洞窟がある。また、字田名と字前泊に自然環境保全地域の標柱が、字前泊と字島尻にそれぞれ海岸保全区域の標柱がある。明確に自然景観や環境保護に関する記念碑等は11件あり<sup>(32)</sup>、従前の調査には見られなかった特徴である。伊平屋村の豊かな自然環境と、行政側の保護対象としての意識を象徴している。

#### 伊平屋島・野甫島記念碑等集成の記載について

- (1) 調査結果は記念碑等ごとに「伊平屋島・野甫島記念碑等集成」としてまとめた。項目は分類、建立年月日、建立場所、材質、法量、方角、設置者、備考、銘文とした。
- (2) 「分類」は先に述べたとおり、記念碑、説明板、標柱・標石、歌碑・詩碑、鳥居、灯籠、慰霊碑、顕彰碑、憲章・宣言の計9種類とした。
- (3) 「建立年月日」は、銘文から建立した時期と判断できるものを記した。「建立」「建設」等と書かれていたり、その日付のみが書かれていたりする場合はこれに当たる。また、文献調査から年月日が明らかになったものも同様に記している。「竣工」「～年度事業」のように、建立時期の手掛かりになるものは、個別事例によって明示した。また、年月日が明示されていなくても、外見や記載内容から、おおよその時期がつかめるものは、不明としつつ、「戦後」「昭和アメリカ統治期」等と付した。
- (4) 「材質」は、石材を利用した記念碑が建立されている場合、石の材質についても記録したが、詳細な分析に基づくものではなく、調査者が参考程度に判断したため、改めて検討する必要がある。
- (5) 「設置者」は、銘文から設置した者と判断できるものを記した。「建立」「贈」等と書かれていたり、他の理由で設置主体が明らかであったりする場合はこれに当たる。また、文献調査から設置者が明らかになったものも同様に記している。「施工」等



のように、主体が記載の個人・団体か明らかではなかったり、人名・団体名はあるが、設置主体とは断定できなかったりするものは、不明として空欄にした。事例によって、「(人名・団体名)か」として、設置者である可能性が高い名称を示している場合がある。

(6) 「銘文」は基本的にすべての文字を記載した。紙面の都合上、実際とは異なる位置で改行・字下げなどを行っている場合がある。なお、銘文が複数面にわたっている場合等の左右の区別は、正面に向かった時の向きを示した。

(7) ■は、摩耗や欠損等により調査者が判読できなかった文字を表す。その後の聞き取り等によって判明した場合は、■の後に括弧書きで表記した。

## 引用・参考文献 (編著者五十音順)

- 字誌編集部会. 2006. 『我喜屋字誌』伊平屋村字我喜屋区.
- 伊平屋村. 2004. 『島尻公民館建設記念誌 島尻のあゆみ』島尻公民館建設事業期成会.
- 伊平屋村. 2017. 『伊平屋村歴史文化基本構想 概要版』.
- 伊平屋村田名公民館建設記念事業期成会. 2015. 『伊平屋村 田名字史』.
- 伊平屋村役場 総務課. 2016. 『広報いへや』No.292 2016年9月号.
- 伊平屋村立伊平屋小学校ウェブサイト.  
[http://terusino.ryukyu/?page\\_id=124](http://terusino.ryukyu/?page_id=124)  
(2019年2月12日閲覧)
- 遠藤庄治. 2001. 『伊平屋村伝説遺跡』伊平屋村教育委員会.
- 沖縄県. 1979. 『野甫大橋』.
- 沖縄県教育庁文化財課. 2016. 『平成28年度版文化財課要覧』.
- 沖縄県教育委員会. 1996 (再版). 『沖縄の文化財 I 天然記念物編』.
- 沖縄県土木建築部. 2016. 『沖縄県の離島架橋 2016年度』.
- 「角川日本地名辞典」編纂委員会 竹内理三. 1986. 『角川日本地名辞典 47 沖縄県』. 角川書店
- 環境省ウェブサイト. 「都道府県自然環境保全地域

内訳表」平成30年3月31日現在.

[https://www.env.go.jp/nature/hozen/data/nca\\_8\\_pref\\_ncadetail.pdf](https://www.env.go.jp/nature/hozen/data/nca_8_pref_ncadetail.pdf)

(2019年2月12日閲覧)

- 岸本弘人・崎原恭子・早瀬千明・島仲彌喜. 2012. 「竹富島における石碑・記念碑等調査報告」『竹富島総合調査報告書』. 沖縄県立博物館・美術館.
- 岸本弘人・石垣忍. 2016. 「鳩間島・黒島・新城島における石碑・記念碑等の調査報告」『鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書』. 沖縄県立博物館・美術館.
- 創立100周年記念事業期成会編. 1982. 『伊平屋村立伊平屋小学校創立100周年記念誌』伊平屋小学校.
- 仲田清英. 1974. 『伊平屋列島文化誌』.

## 註

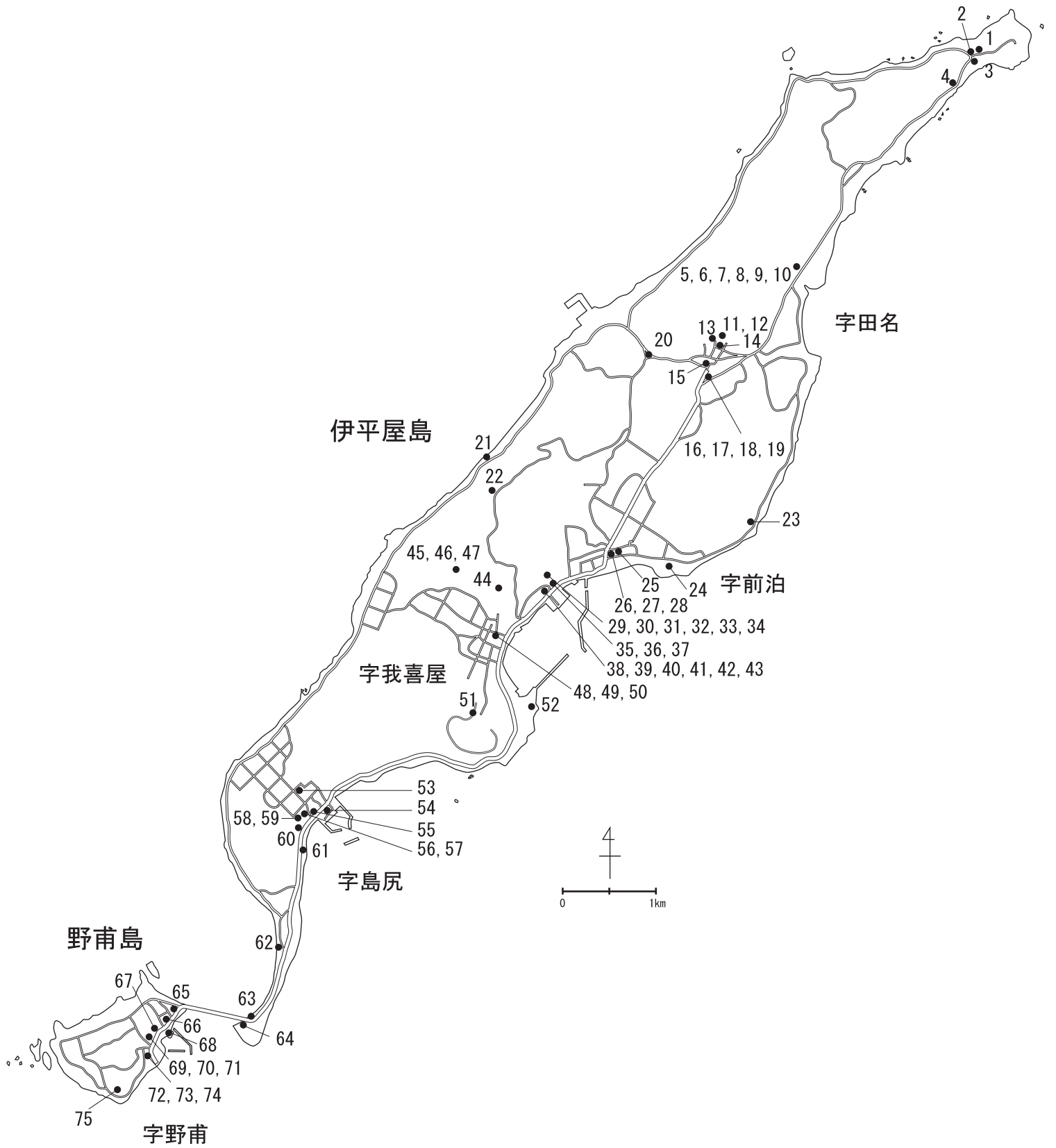
- (1) 『広報いへや』No.292.
- (2) 自治体史を除く研究成果には、上江洲均. 1986. 『伊平屋島民俗散歩』. ひるぎ社、沖縄国際大学南島文化研究所. 1984. 『地域研究シリーズ no.5 伊平屋島・伊是名島調査報告書』. 笠原政治. 1991年. 「歴史の島・島の歴史—沖縄伊平屋島の拜所・伝承・祖先観をめぐる覚書—」『横浜国立大学人文紀要. 第一類 哲学・社会科学』. 横浜国立大学などがある.
- (3) 『平成28年度版 文化財課要覧』P.74には、国指定の理由として、枝張り東西約28m、南北約24mという巨大な枝振りの優美な樹形で著名であり、マツ類では珍しく半円形の傘のような自然樹形を形成し、古くから地域の人々に親しまれ保護されてきた名木として貴重であることが挙げられている.
- (4) 『伊平屋村 田名字史』(以下、「字史」と記す) P.44には、1983(昭和58)年に日本の松の緑を守る会「日本の名松・100選」、同年に沖縄タイムス沖縄の自然100選で「名木100」に選定、1999(平成11)年に年賀郵便絵はがき、2002(平成14)年におきなわの名木百選における「名木」に認定番号006号として認定されたことが記されている.
- (5) 「字史」P.96には、当碑の除幕式は2012(平成24)年4月4日に執り行われ、大田名節が奉納合唱されたこと、歌碑の建立日は公民館落成式典祝賀の吉日

に合したことが説明されている。なお、この碑の設置者である「田名公民館建設記念事業期成会」は、田名公民館の建設を契機に2000（平成12）年6月29日に結成され、2015（平成27）年10月には「字史」を刊行した。

- (6) 作者である国吉真儀は、伊平屋村議会議員を3期務め、1982（昭和57）年9月28日～1986（昭和61）年9月27日まで副議長を務めた人物である。また、1964（昭和39）年7月～1974（昭和49）年6月まで田名区長、1997（平成9）年4月～1999（平成11）年3月までは田名区老人会会長も務めた。ちなみに、「大田名の大地の碑」の背面に記された人物には、村議会議員や教育長、教職員、歴代田名区長などを務めた人物たちも含まれている。
- (7) 宮城善兵は1962（昭和37）年の琉球政府立法院議員選挙で初当選し、その後3期議員を歴任した人物である。1978（昭和53）年には社会福祉部門で沖縄県功労者を受賞している。「字史」P.430には、1971（昭和46）年2月に来村したことが記されている。
- (8) 開通記念碑には、村道名が「田名アッチビシ線」と表記されている。「字史」や伊平屋島の観光パンフレットには「田名アッチャビシ線」と記されている。
- (9) 記念碑の脇に設置された「前泊アサ線」の説明板に道路工事の概要が記されている。
- (10) 『伊平屋村史』P.156-157。
- (11) 『伊平屋村史』P.162。
- (12) 『伊平屋村史』P.129。
- (13) 『伊平屋村史』P.163-164。
- (14) 『伊平屋村立伊平屋小学校創立100周年記念誌』P.19、P.25。西江については、伊平屋小学校が所蔵する資料である『第一号 学校沿革誌 伊平屋小学校』に「南洋帰省」とある。
- (15) 『伊平屋村伝説遺跡』P.99。
- (16) 『伊平屋村伝説遺跡』P.100に建て替える前の写真が掲載されている。
- (17) 『伊平屋村伝説遺跡』P.102には、「昔、首里のアットメーという女の神様を乗せた祝女の代理のような方が、駕籠に乗って本島首里から伊是名に渡って、伊平屋に来た」とある。一方、『伊平屋列島文化誌』P.1360には、「昔島尻は我喜屋から分離したと伝え

られ年中行事も我喜屋ノロの管轄であった」とある。

- (18) 『島尻公民館建設記念誌 島尻のあゆみ』P.226-228。
- (19) 『伊平屋村史』P.172。
- (20) 『伊平屋村史』P.469。当碑や両者の経歴については『島尻公民館建設記念誌 島尻のあゆみ』P.32-41に詳しい。
- (21) 『伊平屋村史』P.396-399。
- (22) 『伊平屋村史』P.461に掲載されている写真では、正面の銘板がない。後から付け足されたものと思われる。
- (23) 『野甫大橋』平面図。
- (24) 『沖縄県の離島架橋』P.43-46。旧橋の完工年については『角川日本地名辞典 47 沖縄県』P.567。
- (25) 『島尻公民館建設記念誌 島尻のあゆみ』P.52。
- (26) 『伊平屋村史』P.147。伊平屋小学校ウェブサイトでは、「作詞 職員一同 作曲 中本正義」とされている。
- (27) 『伊平屋村歴史文化基本構想 概要版』P.25
- (28) 『伊平屋列島文化誌』P.381-382。同書P.440-441には、戦後、飯井が東京に引き上げた後、城間喜平と出会い、上京した伊平屋島出身者の世話役になったことが記されている。
- (29) 『伊平屋村伝説遺跡』P.125及び伊平屋村教育委員会の嘉手納知子氏のご教示による。
- (30) 『伊平屋村伝説遺跡』P.119。同頁の写真とは鳥居が変わっている。
- (31) 道路整備関係では、「田名アッチビシ線村道開通記念碑」、「古歌 大田名節」、「東線道路建設記念碑」、「野甫大橋開通記念碑」。港湾関係では、「野甫港」。航空関係では、「伊平屋ヘリポート」。
- (32) 「県指定天然記念物 田名のクバ山 説明板」、「田名の久場山自然環境保全地域」、「くまや洞窟説明板」、「国指定天然記念物 伊平屋島の念頭平松」、「天然記念物 念頭平松」、「後岳自然環境保全地域」、「前泊地区海岸保全区域」、「腰岳自然環境保全地域」、「島尻地区海岸保全区域」、「西島尻地区海岸保全区域」、「コープネット美ら島応援基金記念碑」。



伊平屋島・野甫島記念碑等集成 分布図

番号：1

名称：田名アッチビシ線村道開通記念碑



分類：記念碑

建立年月日：1983年12月16日

建立場所：久葉山に通じる道路脇

材質：不明

法量：(本体) 高さ113cm 幅86cm 奥行40.5cm ※最大  
(台座) 高さ81cm 幅100.5cm 奥行100.5cm

方角：南南西

設置者：

備考：

銘文：

(正面)

田名アッチビシ線村道開通記念碑

伊平屋村の産業 観光の発展を属望し

特別事業で開通される

昭和五八年十二月十六日建立

(背面)

施工 第一混成団

団長 黒田 宏

作業隊長 平川清治

施工主 伊平屋村長 池田松永

着工 昭和五八年十月

延長 一、七一〇メートル

一期～五期工事の総延長 一万二千六百六拾六メートル

番号：2

名称：県指定天然記念物 田名のクバ山 説明板



分類：説明板

建立年月日：不明（本土復帰以降）

建立場所：久葉山に向かう三叉路の脇

材質：コンクリートに砂岩の銘板か

法量：(本体) 高さ80cm 幅110cm 奥行22cm  
(台座) 高さ12.5cm 幅161cm 奥行93cm ※最大

方角：南南西

設置者：沖縄県教育委員会、伊平屋村教育委員会

備考：

銘文：

(正面)

県指定天然記念物

田名のクバ山

本村の最北端、この田名岬一帯は通称ミサチのウガンチュ（岬の御願所）と呼ばれ全山がクバ（和名ビロウ）の自生する丘陵地である。

ビロウは台湾から高知県まで分布するヤシ科の一種で、県内の特に風の強い地域や御嶽などに広く生育している。ここでは海岸から頂上まで自然のビロウ林が広がり、その規模は県内でも最大規模で、岬の灯台とマッチしてその景観は雄大である。

本地域の標高は最高94mで、遠くから見ると丘全体がビロウの純木のように見えるが、ビロウの他にタブノキ、トベラ、ホルトノキ、カクレミノなどの植物が生育し、メジロやキシバトなどの野鳥の他 ヤシガニや天然記念物のオカヤドカリ類なども多く生息している。

ここでは毎年旧暦9月の大安の日にワラ縄で山を取り囲む「ヤマナジ」という神事などがとり行われ、昔から神の山としてあがめられ、聖地として村民から大切にされてきた。

なお、この地域で許可なく現状を変更し、もしくは保存に影響を及ぼす行為を行うことは法律で禁止されています。

指定年月日 昭和33年1月17日

所在地 伊平屋村字田名

沖縄県教育委員会

伊平屋村教育委員会

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番 号：3  
名 称：田名の久場山自然環境保全地域



分 類：標柱・標石  
建立年月日：不明（1980年10月6日指定）  
建立場所：久葉山に向かう三叉路の脇  
材 質：黒御影石  
法 量：（本体）高さ165.7cm 幅25.5cm 奥行25.5cm  
（台座）高さ約8cm 幅60.5cm 奥行60cm  
方 角：南西  
設 置 者：沖縄県、伊平屋村  
備 考：名称の「久場山」の「場」はそのまま表記している。  
この標柱の脇に設置されている説明板では「田名の久葉山自然環境保全地域」と表記されている。  
銘 文：  
（正面）田名の久場山自然環境保全地域  
（左面）みんなで守ろう、大切な自然  
（右面）昭和五十五年十月六日指定  
（背面）沖縄県・伊平屋村

番 号：4  
名 称：くまや洞窟 説明板



分 類：説明板  
建立年月日：2002年3月11日  
建立場所：くまや洞窟下（道路脇）  
材 質：コンクリートに黒御影石の銘板  
法 量：（銘板）縦57.3cm 横88cm  
方 角：北北東  
設 置 者：沖縄県教育委員会、伊平屋村教育委員会  
備 考：  
銘 文：  
県指定天然記念物 くまや洞窟 昭和33年1月17日指定  
浸食によってできた珪岩質の洞窟です。この地域一帯は、伊平屋層と呼ばれる緑や紫を帯びた硬い珪岩（チャート）の古い地層から成り立っています。洞窟は、地層がしゅう曲したところにあり、その弱い部分が水や風、あるいは砂などによって浸食され、空洞になったと考えられています。  
入口を下ると広さ約600㎡高さ約10mの洞内に入ることができません。この洞窟は江戸時代の学者藤井貞幹の説から、別名「天の岩屋」ともいわれています。このような浸食によってできた珪岩質の洞窟は、琉球列島でも特異な存在であり、学術的に貴重なものです。  
なお、この地域において許可なく現状を変更することは、県条例で禁じられています。  
平成14年3月11日 沖縄県教育委員会  
伊平屋村教育委員会

番 号：5  
名 称：念頭平松公園



分 類：標柱・標石  
建立年月日：不明（1993年7月30日竣工）  
建立場所：念頭平松公園出入口付近  
材 質：不明  
法 量：高さ約101cm 幅約215cm 奥行約42cm ※最大  
方 角：南東  
設 置 者：  
備 考：  
銘 文：  
念頭平松公園  
平成5年7月30日竣工

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番 号：6

名 称：国指定天然記念物 伊平屋島の念頭平松



分 類：記念碑

建立年月日：2016年3月1日

建立場所：念頭平松より南西側

材 質：不明

法 量：(本体) 高さ約60.5cm 幅約232cm 奥行約74.5cm  
(台座) 高さ112.2cm 幅約168cm 奥行約48.5cm

方 角：東

設 置 者：伊平屋村

備 考：

銘 文：

〈伊平屋村章〉

国指定天然記念物

伊平屋島の念頭平松

平成28年3月1日 伊平屋村

番 号：7

名 称：天然記念物 念頭平松



分 類：標柱・標石

建立年月日：1967年6月30日

建立場所：念頭平松の根元

材 質：コンクリート

法 量：念頭平松の根元が立入禁止のため測定不能

方 角：南

設 置 者：琉球政府文化財保護委員

備 考：

銘 文：

(正面) 天然記念物 念頭平松

(左面) 建設一九六七年六月三十日

(右面) 指定一九五八年一月十七日

(背面) 琉球政府文化財保護委員会

番 号：8

名 称：誕生記念植樹 (第5回伊平屋村まつり)



分 類：記念碑

建立年月日：不明 (第5回伊平屋村まつりは1997年開催)

建立場所：念頭平松より北東側

材 質：黒御影石の銘板

法 量：(銘板) 縦40.2cm 横60cm  
(全体) 高さ65.5cm 幅70cm 奥行約52cm ※最大

方 角：南

設 置 者：

備 考：

銘 文：

祝 誕生記念植樹

リュウキュウコクタン 十二名

西江侑起 国吉賢弥 神里瑞季 大見謝千穂 高良梨佐 仲地仁

菜 西江 健 東恩納ルナ 新垣海紅 諸見富士人 宮城りつか

名嘉和音

〈クバの絵〉

村の木：クバ

第5回

伊平屋村まつり

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番 号：9  
名 称：誕生記念植樹（第6回伊平屋村まつり）



分 類：記念碑  
 建立年月日：不明（第6回伊平屋村まつりは1998年開催）  
 建立場所：念頭平松より南西側  
 材 質：黒御影石の銘板  
 法 量：（銘板）縦40cm 横59.4cm  
 （全体）高さ69cm 幅70.3cm 奥行約52cm  
 方 角：東南東  
 設 置 者：  
 銘 文：  
 祝 誕生記念植樹  
 苗木名（ホウオウボク）  
 東江里乃 与那覇志穂 仲順瑞貴 諸見大樹 仲川潤 高良亮輔  
 新垣奈美希 嘉納由紀子 城間輝 伊禮美朱紀 真栄田克 棚原  
 美奈 名嘉伸匡 譜久村翼 野甫宇恭 仲川拓摩 拾六名  
 村の花ツツジ  
 〈ツツジの絵〉  
 村の木  
 第6回  
 伊平屋村まつり

番 号：10  
名 称：誕生記念植樹（第7回伊平屋村まつり）



分 類：記念碑  
 建立年月日：不明（第7回伊平屋村まつりは1999年開催）  
 建立場所：念頭平松より北側  
 材 質：黒御影石の銘板  
 法 量：（銘板）縦40cm 横60cm  
 （全体）高さ97cm 幅70.4cm 奥行16.4cm ※最大  
 方 角：南南西  
 設 置 者：  
 銘 文：  
 祝 誕生記念植樹  
 樹木名 桜  
 新垣明日香 東江章乃 栄野川愛音 金城真子 西江有花 西江  
 有美 国吉和人 石川絵利奈 徳本美妃 山城正薫 伊禮星人  
 高良和直 高良和明 仲地由衣 伊波佳奈 西江佳紀 仲順利華  
 子 東江貴行 諸見夢月  
 〈ツツジの絵〉  
 村の花つつじ  
 第7回  
 伊平屋村まつり

番 号：11  
名 称：田名神社鳥居



分 類：鳥居  
 建立年月日：不明（本土復帰以降）  
 建立場所：田名神社  
 材 質：コンクリート  
 法 量：測定不能  
 方 角：南  
 設 置 者：  
 銘 文：

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：12  
名称：田名屋 竣工板



分類：記念碑  
 建立年月日：不明（2015年7月吉日竣工）  
 建立場所：田名屋の正面右側  
 材質：黒御影石  
 法量：（銘板）縦23.1cm 横26.8cm 厚さ2cm  
 方角：南  
 設置者：  
 銘文：  
 田名屋  
 平成十五年四月着工  
 建築面積 田名屋九・七二㎡  
 アシアゲ六七・八八㎡  
 設計管理(株)ステップ設計  
 代表者 前原恒男  
 建築施工者 城間建設  
 代表者 城間正夫  
 平成十五年七月吉日竣工

番号：13  
名称：後岳自然環境保全地域



分類：標柱・標石  
 建立年月日：不明（1980年10月6日指定）  
 建立場所：後岳に通じる道路脇（田名神社手前）  
 材質：黒御影石  
 法量：高さ157cm 幅25.5cm 奥行25.5cm  
 方角：南南東  
 設置者：沖縄県、伊平屋村  
 備考：  
 銘文：  
 （正面）後岳自然環境保全地域  
 （左面）みんなで守ろう、大切な自然  
 （右面）昭和五十五年十月六日指定  
 （背面）沖縄県・伊平屋村

番号：14  
名称：旧田名公民館表札



分類：標柱・標石  
 建立年月日：不明（昭和アメリカ統治期）  
 建立場所：旧田名公民館正面  
 材質：石灰岩  
 法量：（田名公民館）縦122cm 横30.5cm  
 （寄贈者名）縦22cm 横11cm  
 方角：南南西  
 設置者：  
 備考：  
 銘文：  
 田名公民館  
 寄贈  
 立法院議員  
 宮城善兵





## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：15  
名称：伊平屋乃念頭平松



分類：記念碑、歌碑・詩碑  
 建立年月日：1980年7月15日  
 建立場所：田名スーパー駐車場の脇  
 材質：不明  
 法量：(本体) 高さ125cm 幅約94cm 奥行約29cm ※最大  
 (台座) 高さ約53cm 幅約170cm 奥行約78cm ※最大  
 方角：北  
 設置者：  
 備考：台座上面の石札の文字は、碑の正面に向かって右側から左側を回る順序で記載。なお、1つの石札に1人の名前(年齢や役職が加えられる場合もある)が刻まれている。石札の区切りは「、」で記した。

銘文：

(正面)

伊平屋乃念頭平松

念頭平松ぬ

枝むちぬ美らさ

田名の乙女ぬ

身持美らさ

名護市字屋部

大島老人会伊平屋観光記念

昭和五十五年七月十五日

(台座上面)

宜保豊信、八十六才 比嘉蒲戸、八十七才 比嘉松三、  
 連合会長 比嘉照長、屋部区長 岸本光雄、会長 比嘉信勇、  
 副会長 比嘉友春、会計 東江定義、班長 渡口良徳、  
 班長 宮里春、班長 比嘉カナ、班長 宮里歌子、比嘉嘉光、  
 岸本ヒデ、比嘉ヨシ、津波松次郎、吉元ナミ、儀部ウト、  
 岸本カメ、大城金禄、岸本柳光、岸本ウト、比嘉マツ、岸本文子、  
 東江ウト、比嘉トミ、山本小枝、比嘉ナエ、吉元ナエ、儀部真恒、  
 饒平名カナ、岸本フミ、比嘉シズ、岸本マツ、比嘉ハル、  
 宜保ヨシ、比嘉初、比嘉カメ、比嘉チヨ、比嘉美津枝、  
 比嘉信三、比嘉雄正、比嘉清、大城勝章、比嘉昇春、儀部真三、  
 八十二才 新垣ウサ、八十三才 新垣根気、儀部カマダ、  
 八十一才 比嘉万民、岸本カマド 八十五才、  
 八十三才 具志堅興善

(台座背面)

揮毫 岸本定昇

刻字 比嘉信勇

世話人 宮城松助

番号：16  
名称：大田名節の碑



分類：歌碑・詩碑

建立年月日：2001年11月24日

建立場所：田名公民館出入口

材質：不明

法量：(本体) 高さ約220cm 幅約195cm 奥行約60cm  
 (台座) 高さ40cm 幅225.7cm 奥行144cm

方角：南

設置者：田名公民館建設記念事業期成会

備考：

銘文：

(正面)

だんじゅとよまりる

大田名の島や

後岳やくさて

め森前なち

(背面)

田名村ぬ白太鼓

(大田名節)

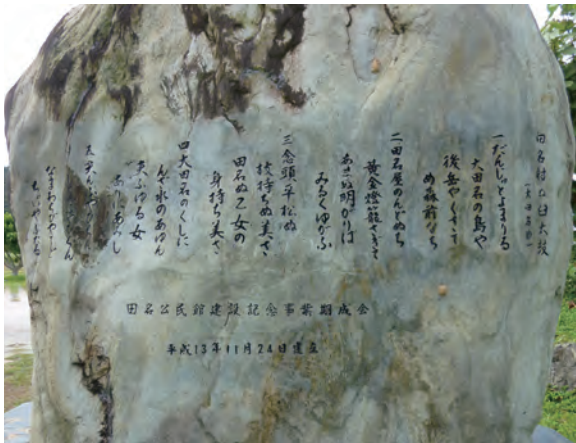
一、だんじゅとよまりる

大田名の島や

後岳やくさて

め森前なち

伊平屋島・野甫島記念碑等集成



- 二. 田名屋のんどぬち  
黄金燈籠さぎて  
あまぬ明がりば  
みるくゆがふ
  - 三. 念頭平松ぬ  
枝待ちぬ美さ  
田名ぬ乙女の  
身持美さ
  - 四. 大田名のくしに  
んざ水のあゆん  
夫ふゆる女  
ありにあみし
  - 五. 夫んふやびらん  
しとんふやびらん  
なまわらびやてど  
ちゅういやふたる
- 田名公民館建設記念事業期成会  
平成13年11月24日建立

番 号：17  
名 称：田名公園



分 類：標柱・標石  
 建立年月日：不明（平成7年度事業関連）  
 建立場所：田名公園出入口（田名公民館横）  
 材 質：黒御影石の銘板  
 法 量：（全体）高さ92cm 幅139.8cm 奥行15cm ※最大  
 （銘板）縦40.3cm 横120cm  
 方 角：西北西  
 設 置 者：  
 備 考：  
 銘 文：  
 田名公園  
 平成7年度農村基盤総合整備事業

番 号：18  
名 称：大田名の大地の碑



分 類：記念碑、歌碑・詩碑  
 建立年月日：1999年3月吉日  
 建立場所：田名公園グラウンド南側  
 材 質：不明  
 法 量：（石碑）高さ210cm以上 幅約140cm 奥行約98cm  
 （正面の銘板）縦80cm 横120cm  
 （背面の銘板）縦49cm 横98cm  
 方 角：北東  
 設 置 者：  
 備 考：碑の設置区域の床面に「てるしのの島」説明板がはめ  
 込まれている。  
 銘 文：  
 （正面）大田名の大地  
 （台座正面）大田名ぬ大地  
 見事平地やい  
 平成ぬ光  
 世々に残ち  
 （台座背面）理 事 長 国吉真安  
 理 事 国吉真儀  
 // 仲地功憲  
 // 沢岷信明  
 // 仲里明人



伊平屋島・野甫島記念碑等集成



// 新垣正順  
 // 東 一幸  
 // 宮里真昇  
 監 事 新垣文儀  
 // 安里武雄  
 換地委員 仲地功憲  
 // 東恩納言長  
 // 國吉真儀  
 // 新垣文儀  
 // 国吉真安  
 // 安里武雄  
 // 喜納 清  
 評価委員 沢岷信明  
 // 名嘉文男  
 // 仲里明人  
 // 新垣正順  
 // 東 一幸  
 初代理事長 新垣芳一  
 平成十一年三月吉日

番 号：19  
 名 称：「てるしのの島」説明板



分 類：説明板  
 建立年月日：1999年3月吉日か  
 建立場所：「大田名の大地の碑」横の床面  
 材 質：黒御影石  
 法 量：てるしのの島 縦20.0cm 横100.2cm  
 地図 縦200cm 横60cm  
 方 角：  
 設 置 者：  
 備 考：床面に埋め込まれている。  
 銘 文：  
 てるしのの島  
 <伊平屋島の地図>  
 野甫島 米岬 阿波岳212.0 島尻 賀陽岳203.9 屋蔵墓  
 我喜屋 腰岳227.3 虎頭岩 前泊 前岳178.4 アサ岳218.1  
 現在地 田名 後岳230.8 念頭平松 タンナ岳236  
 クマヤ (天の岩戸) 田名岬 無蔵水 久葉山94

番 号：20  
 名 称：古歌 大田名節



分 類：歌碑・詩碑  
 建立年月日：2009年3月  
 建立場所：前泊アサ線の西側（シーフガー泉近く）  
 材 質：砂岩  
 法 量：(本体) 高さ約157cm 幅約73cm 奥行約42cm  
 (台座) 高さ55cm 幅150.4cm 奥行100cm  
 方 角：東南東  
 設 置 者：  
 備 考：歌碑の横に「前泊アサ線」の説明板があり、平成21年3月の村道前泊アサ線道路改良事業の完成を記念し、「大田名節」の琉歌を建立した経緯が説明されている。  
 銘 文：  
 古歌 大田名節  
 あさみちがいめら ゆなみちがいめら  
 わんやうざなむい 御待ちさびら

番 号：21  
名 称：前泊地区海岸保全区域



分 類：標柱・標石  
 建立年月日：不明（1975年11月5日指定）  
 建立場所：田名港より南側へ約2kmの海岸（岩盤の上）  
 材 質：コンクリート  
 法 量：高さ100.5cm 幅19.5cm 奥行15cm  
 方 角：東北東  
 設 置 者：沖縄県  
 備 考：  
 銘 文：  
 （正面）  
 海岸保全区域  
 沖縄県⇄  
 （背面）  
 昭和五十年■■（十一）月五日指定



番 号：22  
名 称：伊平屋ヘリポート



分 類：標柱・標石  
 建立年月日：不明（1975年2月1日竣工）  
 建立場所：伊平屋ヘリポート前（道路脇）  
 材 質：黒御影石の銘板  
 法 量：（銘板）縦30cm 横49.7cm  
 （全体）高さ85.5cm 幅150.5cm 奥行48cm ※最大  
 方 角：北  
 設 置 者：  
 銘 文：  
 伊平屋ヘリポート  
 竣工 昭和50年2月1日

番 号：23  
名 称：東線道路建設記念碑



分 類：記念碑  
 建立年月日：不明（1978年8月竣工）  
 建立場所：前岳東麓  
 材 質：碑は石灰岩、台座はコンクリート  
 法 量：（全体）高さ180cm 幅104cm 奥行80cm  
 （石碑）高さ101cm 幅56cm 奥行23.5cm  
 （台座）高さ79cm 幅104cm 奥行80cm  
 方 角：東  
 設 置 者：  
 備 考：  
 銘 文：  
 （正面）  
 東線道路建設記念碑  
 伊平屋村産業発展を属望し、特別事業として建設さる  
 （背面）  
 施工 第一混成団  
 団長 阿野慎平  
 中隊長 島崎興継  
 施工主 前村長 池田松永  
 現村長 新垣清正  
 着工 昭和五三年二月  
 竣工 昭和五三年八月  
 総工費 壹億壹千五百万円  
 総延長 三、一四〇メートル

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：24

名称：腰岳自然環境保全地域



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1980年10月6日指定）

建立場所：腰岳山頂付近

材質：黒御影石

法量：高さ155cm 幅25cm 奥行25cm

方角：東

設置者：沖縄県、伊平屋村

備考：環境省ウェブサイト「都道府県自然環境保全地域内訳表 平成30年3月31日現在」によると、指定年月日は1980年10月6日。

銘文：

（正面）腰岳自然環境地域 昭和五十五年十月

（左面）みんなで守ろう、大切な自然

（右面）昭和五十五年十月

番号：25

名称：字前泊創立百周年記念



分類：記念碑

建立年月日：2009年8月10日

建立場所：字前泊集落センター内

材質：碑は琉球石灰岩

法量：（全体）高さ187cm 幅163cm 奥行88cm

（台座）高さ70cm 幅163cm 奥行88cm

（左側の銘板）縦32cm 横55cm

（右側の銘板）縦32cm 横75cm

方角：西

設置者：伊平屋中学校前泊生徒一同

備考：

銘文：

（碑）

愛

〈文様〉字前泊創立百周年記念

（2009年）平成21年8月10日

（左側の銘板）

1908（明治41）年沖縄県島嶼町村制の施行、その翌年に字田名から分字し字前泊が誕生した。ここに字前泊創立百周年記念に際し先人たちを偲びその功績を讃えるとともに後世の子ども達に前泊の風土と伝統と魂を託しこの石碑を建立する。

（右側の銘板）

個人的な感情を超越した幸せを願う深く温かい心

人・物・事柄などを大切に思う気持ち自分の故郷を大切に思う気持ち（愛郷）

親が我が子を慈しみかわいがる深い愛情（慈愛）

兄弟間または友人などに対する親しみの情（友情）

全ての人を分け隔てなく平等に慈しむ心（博愛）

伊平屋中学校前泊生徒一同



## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：26

名称：シヌグ堂（前泊神社）鳥居



分類：鳥居

建立年月日：不明（戦後）

建立場所：字前泊集落内

材質：コンクリート

法量：高さ329cm 幅370cm 奥行30cm

方角：南

設置者：

備考：

銘文：

番号：27

名称：シヌグ堂（前泊神社）灯籠



左側ゴチ

右側ゴチ

分類：灯籠

建立年月日：不明（戦後）

建立場所：字前泊集落内

材質：コンクリート

法量：（左側）高さ160cm 幅58.5cm 奥行59.2cm  
（右側）高さ149cm 幅59cm 奥行59cm

方角：南

設置者：前泊寅頭会

備考：

銘文：

左側

（正面）献納

（背面）前泊寅頭会

右側

（正面）献納

番号：28

名称：シヌグ堂由来



分類：説明板

建立年月日：1989年7月

建立場所：字前泊集落内

材質：琉球石灰岩に黒御影石の銘板

法量：（石碑）高さ131cm 幅182cm 奥行26cm  
（正面の銘板）縦80cm 横50cm

方角：南

設置者：株式会社与那嶺組 社長 与那嶺勝也

銘文：

（正面の銘板）

シヌグ堂由来

明治四二年 沖縄の特別町村制の施行に田名から分割して字前泊の行政区が誕生し初代区長に湧川朝芳氏が選任された。新字の誕生によって拝所設置の必要が生じたので大正五年に現在の敷地に緑樹を植え石垣を巡らして石造の堂を建立し初代の司祭に東江金次翁がなった。これまで五度にわたってシヌグ堂の増改築がおこなわれたが平成元年度に近代的手法を用いて重修を加えた。設計を末吉建築設計 施工を（株）与那嶺組が担当し無事竣工をみた。平成元年七月吉日竣工

（背面の銘板）

贈

株式会社与那嶺組

社長 与那嶺勝也

番号：29

名称：いへやの塔（中央）



分類：慰霊碑

建立年月日：1969年6月

建立場所：伊平屋村役場北西側

材質：コンクリート及び天然石材

法量：(全体) 高さ287.5cm 幅274.4cm 奥行286.5cm  
 (石碑) 高さ135cm 幅106cm 奥行28cm  
 (台座) 上段 高さ42cm 幅161cm 奥行183.3cm  
 中段 高さ74cm 幅228.5cm 奥行229cm  
 下段 高さ36.5cm 幅274.4cm 奥行286.5cm  
 (正面の銘版) 縦42.6cm 横126cm  
 (右面の銘板) 縦42.6cm 横126cm  
 (左面手前の銘板) 縦42.6cm 横126cm  
 (左面奥の銘板) 縦42.6cm 横60cm

方角：南西

設置者：伊平屋村長 前田徳盛

備考：香炉に「いへやの塔」とある。

建立年月日・設置者は「いへやの塔（右側2）」による。

銘板の文字は2段組みで記されている。

銘文：

(石碑)

いへやの塔

(正面の銘板)

伊平屋村戦没者芳名

日露戦争 陸軍兵士

前泊 大城松

シベリア戦争 陸軍兵士

我喜屋 前里守男

日中戦争 陸軍兵士

田名 名嘉文盛 東恩納常吉

前泊 恩河清昌 古波藏市正

我喜屋 仲村新佑

島尻 譜久村樽輔

野甫 西銘竹信

大東亜戦争 陸軍下士官

田名 東江福永 池田岩福 泉川覺正 伊禮清一

前泊 大味謝盛光

我喜屋 奥間萬貞 前里良榮 諸見成昌

島尻 我喜屋善徳 高良清正 高良豊徳 名嘉孝仁 仲田勇盛 諸見徳衛

陸軍兵士

田名 赤嶺建清 新垣安昭 新垣三雄 新垣仁精 新垣益義  
 新垣正雄 伊禮永直 嘉手納松秀 城間喜長 新城徳夫  
 末吉徳成 名嘉光盛 名嘉千哲 中地喜永 比嘉忠太郎 與儀清正

前泊 東江三祥 安里千栄 安里千代成 伊豆味文盛 伊是名松吉  
 ウチマ守雄 大城健三 大嶺仙徳 川平幸輝 未吉熊雄  
 未吉孝藏 名嘉喜市 西江喜永 宮城普徳 宮城松栄

我喜屋 新垣安彦 新垣安律 新垣清幸 新垣清昌 新垣清夫  
 新垣清松 新垣隆一 石川忠能 未吉豊光 名嘉孝廣  
 仲川政秀 仲本哲二 前里成達 松堂正平 諸見光三  
 山川昌藏 吉瀬忠次郎 與那嶺正勝

島尻 伊禮和男 伊禮秀助 伊禮松藏 大城英造 我那覇吉松  
 國吉徳弘 未吉松盛 高良清元 高良清芳 高良豊吉  
 高良三良 名嘉清栄

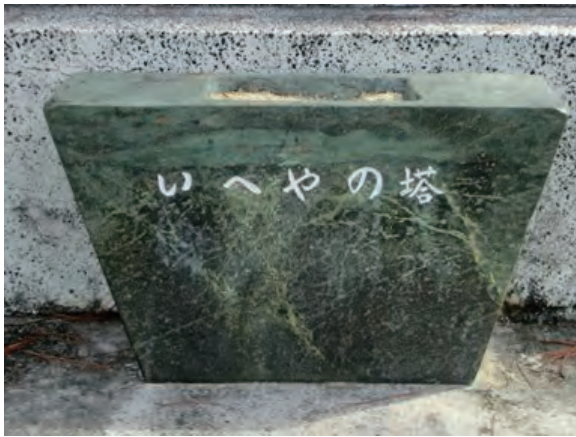
(右面の銘板)

大東亜戦争 陸軍兵士

島尻 名嘉平吉 名嘉皓明 名嘉勇清 仲川太良 仲川善一  
 仲田吉郎 西銘太郎 野甫千代松 宮城永正 宮城永藏  
 諸見仙正 諸見文助 諸見長恭

野甫 金城仁一 金城善吉 金城善吉 金城福吉 未吉孝吉  
 未吉三郎 渡慶次芳彦 西銘太健 西銘竹松 与那覇隆盛

伊平屋島・野甫島記念碑等集成



- 陸軍軍属  
 田名 東江樽助 城間半吉 未吉金子 沢岷平次 名嘉亀千代 仲地ヨシ 比嘉カメ 宮里カツ 宮里鶴山 諸見孝助  
 前泊 池田豊子 伊禮平吉 我部カマド 我部幸永 渡久地重 名嘉正雄  
 我喜屋 玉城清吉 名嘉徳吉 名嘉松吉 西江亀 比嘉正昇 比嘉正一 伊礼松吉 宮城普榮  
 我喜屋 山川昌徳 吉瀬忠正  
 島尻 東江清昌 大城樽助 我喜屋吉八 高良松助 名嘉十次郎 名嘉孝次 野甫千代吉 譜久村トヨ 譜久村英良 譜久村三郎 宮城牛 諸見善平 諸見豊吉 東江太徳 泉川六郎 西銘太榮 前田幸一
- 野甫  
 海軍士官  
 田名 名嘉哲一 城間文雄  
 前泊 喜屋武隆安  
 我喜屋 名嘉徳安 前里孝榮
- 海軍兵士  
 田名 名嘉文一 仲里信一 仲里吉松  
 前泊 大城岩鐵 大城仁助 親里清秀  
 島尻 我喜屋喜助  
 野甫 未吉孝徳 西銘安德
- 海軍軍属  
 田名 大城徳吉 金城武吉 新城英秀 新城千藏 照屋松榮 仲地豊繁 仲村徳永 與那覇清光 與那嶺孝永 東江信夫 上原松榮 佐久田朝啓 名嘉喜清  
 我喜屋 新垣キヌ  
 (左面手前の銘板)  
 大東亜戦争 海軍軍属  
 我喜屋 新垣太吉 名嘉清松 西銘眞昌 諸見光芳  
 島尻 伊禮永次 伊禮徳盛 國吉亀吉 仲川孝次 仲田嘉眞 諸見常正  
 野甫 伊禮新明 金城太吉 未吉三良 玉城守正
- 準軍属  
 前泊 東江イク 池田カナ 伊禮徳太 伊禮モサ 伊禮ヨシ 上原幸徳 上原マカ 大城オサ 大城カマ 大城静子 大見謝三郎 親里清榮 親里ハル 我喜屋福吉 神里千代竹 喜名ツル 未吉秋子 未吉英治 未吉カメ 未吉ナビ 未吉カマド 渡久地政徳 渡久地政安 名嘉信子 西江喜芳 西江福藏 東恩納健康 東恩納マツ 東恩納シゲ 東恩納英仁 東恩納マカタ 湧川カマド 湧川朝正
- 我喜屋 金城サン 金城千代 山川三郎  
 島尻 宮城憲榮 宮城千藏
- 一般住民  
 田名 東江カメ 東江シゲ 安里徳吉 新垣タル 金城カマ 知念ナビ 名嘉英機 仲村政次 宮里憲光 宮里美代子  
 前泊 安里カマド 伊禮茂雄 伊禮幸夫 上原秀子 内間武太 親里トナ 我部オト 我部トヨ 我部悦子 我部節子 我部武男 我部武志 我部初子 喜屋武ツル 喜屋武光枝 喜屋武道子 喜屋武安子 喜屋武ナビ 喜屋武隆茂 喜屋武隆勇
- 我喜屋 東江慶良 東江利夫 東江ハナ 東江慶範 東江稔 東江佐代子 具志五郎 具志カマ 具志ウシ 具志幸正 具志昇明 具志ミエ
- (左面奥の銘板)  
 大東亜戦争 一般住民  
 我喜屋 名嘉江美 名嘉公雄 名嘉佐恵子 名嘉美津子 仲本カマル 仲本徳守 仲本博昭 仲本博勝 仲本博文 西江貞 西江トワ 西江マカ 比嘉カマ 伊禮宣光 山川巖  
 島尻 新垣トヨ 新垣繁榮 伊禮誠一 國吉松藏 高良カマ 名嘉重郎 仲川ウミト 仲川松盛 西銘モウシ  
 野甫 東江清昌 東江タラ 東江廣吉 東江峯 東江洋三 西銘兼孝 西銘詮 比嘉モサ



## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：30

名称：いへやの塔（右側1）



分類：慰霊碑、歌碑・詩碑

建立年月日：不明（戦後）

建立場所：伊平屋村役場北西側

材質：砂岩の碑に白御影石の台座

法量：（全体）高さ73cm 幅67cm 奥行39cm

（石碑）高さ62cm 幅41.5cm 奥行15cm

（台座）高さ11cm 幅67cm 奥行39cm

方角：南西

設置者：城間喜平か

備考：銘文の歌を詠んだのは城間喜平（『伊平屋村史』P.248）。

銘文：

いへやの塔ゆ建てて 霊黄金寄せて

護り神なさい 平和まもら

巳酉 喜平詩

番号：31

名称：いへやの塔（右側2）



分類：慰霊碑

建立年月日：1969年6月

建立場所：伊平屋村役場北西側

材質：黒御影石の銘板

法量：（全体）高さ99.5cm 幅77cm 奥行43cm

（台座）高さ11cm 幅67cm 奥行39cm

（銘板）縦76cm 横45.5cm

方角：南西

設置者：伊平屋村長 前田徳盛

備考：

銘文：

いへやの塔

われわれ伊平屋村民は第二次世界大戦終戦二十五忌にあたり祖國郷土の繁栄と世界平和を祈って各方面戦野において戦没した伊平屋村出身將兵の英霊に謹んでこの塔を捧げます。

一九六九年六月

伊平屋村長 前田徳盛

番号：32

名称：いへやの塔（右側3）



分類：記念碑

建立年月日：1995年3月31日

建立場所：伊平屋村役場北西側

材質：緑色に近い御影石の銘板

法量：（全体）高さ89.5cm 幅71.5cm 奥行45cm

（台座）高さ10cm 幅71.5cm 奥行39cm

（銘板）縦60.3cm 横45cm

方角：南西

設置者：伊平屋村長 新垣芳一

備考：

銘文：

塔改建設 城間建設 城間正夫

彫刻一切 伊差川大理石工芸 林新龍

実施者 伊平屋村長 新垣芳一

平成7年3月31日

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：33

名称：いへやの塔（左側1）



分類：慰霊碑・歌碑・詩碑

建立年月日：不明（戦後）

建立場所：伊平屋村役場北西側

材質：黒御影石の銘板

法量：（全体）高さ73.5cm 幅49.5cm 奥行38.5cm  
（台座）高さ10cm 幅49.5cm 奥行38.5cm  
（銘板）縦50cm 横24cm

方角：南西

設置者：新垣三次郎か

備考：

銘文：

くにぬたみとむて あたらぬちしてて  
あとみうしなたる うやぬくりさ  
壬子 新垣三次郎の詞（八十五才）

番号：34

名称：いへやの塔（左側2）



分類：記念碑

建立年月日：不明（戦後）

建立場所：伊平屋村役場北西側

材質：琉球石灰岩に黒御影石の銘板

法量：（全体）高さ78.8cm 幅115cm 奥行46.2cm  
（石碑）高さ60cm 幅79cm 奥行11cm  
（台座）高さ10.8cm 幅115cm 奥行46.2cm  
（銘板）縦45.5cm 横61cm

方角：南西

設置者：伊平屋の塔（中央・右側2）と同時の建立か。

備考：

銘文：

塔建設	仲川光玄	末吉仁吉
塔石採取	照屋唯徳	名嘉清功
彫刻一切	山川武利	宮城清久
謹書塔文字	宮城親輝	伊礼 寛
氏名字	宮城普詮	与那嶺正利
実施者	前田徳盛	仲里恵邦
支部長	城間喜平	議会議員一同
副支部長	池田松永	遺族会員一同
事務局	宮城普吉	傷痍軍人会員一同
	儀間増次	伊平屋村役所職員一同
	宮城松助	琉球政府駐在員一同
	新垣平徳	伊平屋村青年会員一同
	東江三助	伊平屋村婦人会員一同
	金城畑吉	伊平屋丸第一第二第三船員一同
	末吉熊助	伊平屋区教育委員会一同

番号：35

名称：第二次世界大戦上陸モニュメント



分類：記念碑

建立年月日：1996年6月3日

建立場所：伊平屋村役場南側

材質：コンクリート及び黒御影石

法量：（全体）高さ407cm 幅104cm 奥行34.5cm  
（銘板）高さ66.8cm 幅90cm

方角：南

設置者：伊平屋村長 新垣芳一

備考：

銘文：

1945年（昭和20年）6月3日早朝に米軍は、伊平屋東海岸沖で島を取り囲む形で、海面を黒く覆いつくす多隻からなる軍艦により、山の原型を破壊する程熾烈な艦砲射撃後、前泊海岸この地から上陸した。

日本で唯一の悲惨な地上戦は、一般住民をも巻き込み本村において40名余沖縄県全土で20万余の尊い人命を奪い去った。

私たちは、沖縄戦の体験と真相から戦争の不条理と残酷さを正しく世に継承し、世界の恒久平和を希求する理念として戦争につながる一切の行為を否定する。そして、平和憲法の人間尊重の精神に立脚した未来永劫の平和な建設を図るため、過去の悲惨な戦争体験を風化させることなく歴史的礎として、米軍上陸碑をここに建立する。

1996年（平成8年）6月3日

伊平屋村長 新垣芳一

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：36  
名称：献呈の辞



分類：記念碑  
建立年月日：2002年6月26日  
建立場所：伊平屋村役場南側  
材質：コンクリート  
法量：(全体) 高さ104cm 幅81.5cm 奥行15.5cm  
(銘板) 縦35.7cm 横71cm

方角：南  
設置者：米国陸軍第七二六水陸両用車大隊協会  
備考：  
銘文：

献呈の辞

この記念碑は、一九四五年六月三日にこの地に上陸した、米国陸軍第七二六水陸両用車大隊協会より、沖縄県伊平屋島の住民へ、友情の証として捧げるものである。

この記念碑によって我々と伊平屋島の素晴らしい住民との友情と親善心が、永遠に続くものであることを、この島を訪れるすべての人が、理解することを望む。

二〇〇二年六月三日

米国陸軍第七二六水陸両用車大隊協会

Dedication

This memorial plaque dedicated in friendship to the citizens of the Iheya Island Okinawa Prefecture, by the members of the 726th Amphibious Tractoe Battalion Association, U.S. Army, who landed on this spot on June 3.1945.

May this serve notice to all visitors to this island that the spirit of friendship and goodwill prevails forever between this association and the people of Iheya.

Presented by: The 726th Amphibious Tractoe Battalion. U.S. Army  
June 26, 2002

番号：37  
名称：名誉村民 山中貞則先生胸像



分類：顕彰碑  
建立年月日：2004年5月13日  
建立場所：伊平屋村役場南側  
材質：不明  
法量：(胸像) 高さ84cm 幅60cm 奥行40cm  
(正面の銘板) 縦75cm 横15cm  
(左面の銘板) 縦80cm 横50cm  
(上台) 高さ120cm 幅60cm 奥行60cm  
(下台) 高さ10cm 幅85cm 奥行85cm

方角：南  
設置者：山中貞則先生胸像建設期成会 会長 新垣芳一  
伊平屋村長 西銘真助

備考：

銘文：

(正面の銘板)

名誉村民 山中貞則先生胸像

(左面の銘板)

顕彰

伊平屋村名誉村民(昭和五十四年六月十九日推挙)山中先生は、大正十年七月九日鹿児島県にお生まれになり、昭和二十八年衆議院議員に初当選以来今日まで国政の重要なポストを歴任され我が国の平和と繁栄に大きな貢献をなされました。

とりわけ沖縄県については、総理府総務長官としてまた初代沖縄開発庁長官として、卓越した政治手腕と指導力をもって沖縄の日本復帰の実現、附記問題の処理解決、振興開発の推進等まさに歴史に残る数々の偉業を成し遂げられました。

就中、我が伊平屋村に対しては、格別な御厚情をもって離島、伊平屋村、野甫区民の悲願であった野甫大橋架橋の実現、さらに村道アッチャビシ線、アグチャー線、我喜屋西線、島尻西線等の新設等本村の発展に多大なご尽力を賜りました。

伊平屋村民は、本村発展の大恩人山中貞則先生に報恩の誠を捧げ末永く後世にその功績を顕彰するため、ここに先生の胸像を建立するのであります。

平成十六年五月十三日

山中貞則先生胸像建設期成会 会長 新垣芳一  
伊平屋村長 西銘真助

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：38  
名称：伊平屋村民憲章



分類：憲章・宣言  
建立年月日：不明（1993年1月1日制定）  
建立場所：伊平屋中学校東側  
材質：片状砂岩  
法量：（石碑）高さ334cm 幅220cm 奥行42cm  
（台座）高さ91cm 幅362cm 奥行152cm  
方角：東  
設置者：  
備考：  
銘文：  
伊平屋村民憲章  
平成五年一月一日 制定  
私たちは 伊平屋村民としての誇りと責任をもち みんなで力をあわせて  
活力ある豊かな文化村をめざし つぎのこを実践しましょう  
一、自然を愛し、美しい村をつくりましょう  
一、時間を守り、住みよい村をつくりましょう  
一、教養を高め、文化の村をつくりましょう  
一、誰にも親切にし、心豊かな村をつくりましょう  
一、スポーツに親しみ、明るい村をつくりましょう

番号：39  
名称：交通安全宣言之村



分類：憲章・宣言  
建立年月日：1992年12月吉日  
建立場所：伊平屋中学校東側  
材質：砂岩  
法量：（石碑）高さ142cm 幅80cm 奥行17cm  
（銘板）縦19.5cm 横40.4cm  
方角：東  
設置者：本部地区交通安全協会か  
備考：  
銘文：  
交通安全宣言之村 伊平屋村  
（銘板）  
平成4年12月吉日建立  
伊平屋村  
本部地区交通安全協会

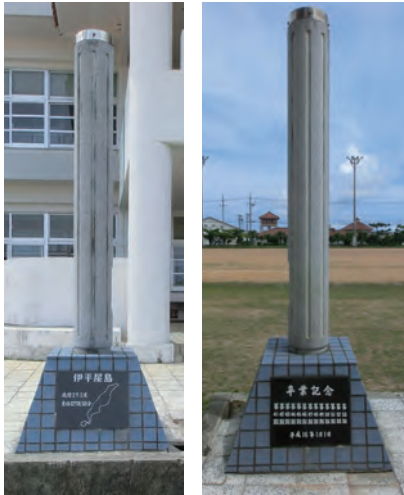
番号：40  
名称：伊平屋案内図



分類：説明板  
建立年月日：1998年  
建立場所：伊平屋中学校正門前  
材質：砂岩  
法量：（石碑）高さ82cm 幅175.2cm 奥行104cm  
（台座）高さ30cm 幅173cm 奥行126.5cm  
設置者：伊平屋中学校 第15代校長 小橋川春武  
備考：銘文と対応する伊平屋村の地図と方位記号が刻まれている。各地点との距離は、「中学校」を中心とする直線上の目盛で表されている。  
銘文：  
（上面）  
伊平屋案内図 伊平屋中学校からの距離（約km）  
灯台 8.0 天の岩戸 7.8 念頭平松 5.0  
田名スーパー 3.2 前泊スーパー 0.7  
中学校 拠点 診療所 0.6 島尻スーパー 4.3  
米崎 6.7 野甫コミュニティー 7.6  
（背面）  
伊平屋中学校 第15代校長 小橋川春武氏 平成10年

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：41  
名称：伊平屋中学校 卒業記念



分類：記念碑  
 建立年月日：2004年1月1日  
 建立場所：伊平屋中学校 グランド西側  
 材質：コンクリート  
 法量：(石碑) 高さ237cm 幅30cm 奥行30cm  
 (台座) 高さ65cm 幅65cm 奥行62.5cm  
 (正面の銘板) 縦40cm 横50cm  
 (背面の銘板) 縦50cm 横42cm  
 方角：南  
 設置者：伊平屋中学校第41～第53期卒業生か  
 備考：  
 銘文：  
 (正面の銘板)  
 伊平屋島  
 北緯27.2度 東経127度58分  
 〈伊平屋島・野甫島の図〉  
 (背面の銘板)  
 卒業記念 第41期 第42期 第43期 第44期 第45期 第46期 第47期 第48期 第49期 第50期 第51期 第52期 第53期  
 平成16年1月1日

番号：42  
名称：豊かな心



分類：記念碑  
 建立年月日：1998年6月吉日  
 建立場所：伊平屋中学校 グランド北側  
 材質：琉球石灰岩  
 法量：高さ182cm 幅133cm 奥行105cm  
 方角：南  
 設置者：第四十一期～五十期卒業生一同  
 備考：  
 銘文：  
 (正面)  
 豊かな心  
 (右側)  
 贈 第四十一期～五十期卒業生一同  
 平成十年六月吉日  
 揮毫 第十四期卒業生 仲村信男 (静雲)

番号：43  
名称：校歌 (伊平屋中学校)



分類：歌碑・詩碑  
 建立年月日：不明 (1961年10月1日校歌制定以降)  
 建立場所：伊平屋中学校 グランド北側  
 材質：石灰岩  
 法量：高さ133cm 幅108cm 奥行56cm  
 方角：南  
 設置者：  
 銘文：  
 校歌 作詞 中村正巳  
 作曲 外間永律  
 一 朝日に映ゆる 虎頭岩 広き海原 前にして  
 がっちり仲良く 手をつなぎ  
 あゝ友愛の 学び舎は これぞ我等が 伊平屋中  
 二 天の岩戸は 日の本の 国のはじめの ゆかし島  
 久遠の光 今もおお あゝ夢もゆる 歌声は  
 これぞ我等が 伊平屋中  
 三 文化輝く 沖縄を になう我等は 進みゆく  
 理想をめざして まっしぐら あゝ栄光の  
 学び舎は これぞ我等が 伊平屋中

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

---

番 号：44

名 称：伊平屋村我喜屋の神あしあげ



分 類：標柱・標石

建立年月日：1990年3月25日

建立場所：我喜屋集落西側

材 質：コンクリート

法 量：高さ150cm 幅25cm 奥行25cm

方 角：東

設 置 者：沖縄県教育委員会、伊平屋村教育委員会

銘 文：

(正面) 県指定有形民俗文化財

伊平屋村 我喜屋神あしあげ

(左面) 平成二年三月二五日建立

(右面) 指定年月日 昭和五二年七月十一日

(背面) 沖縄県教育委員会 伊平屋村教育委員会

番 号：45

名 称：片隈神社鳥居1



分 類：鳥居

建立年月日：不明(戦後)

建立場所：片隈神社参道入口

材 質：コンクリート

法 量：測定不能

方 角：南南西

設 置 者：

備 考：

銘 文：

番 号：46

名 称：片隈神社鳥居2



分 類：鳥居

建立年月日：不明(戦後か)

建立場所：片隈神社参道

材 質：コンクリート

法 量：測定不能

方 角：南南西

設 置 者：

備 考：

銘 文：

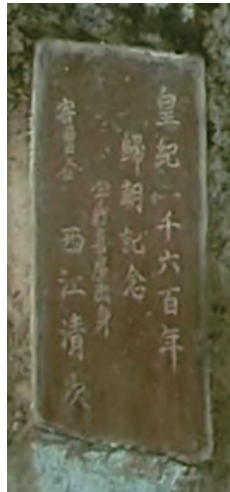
## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：47  
名称：片隈神社鳥居3



分類：鳥居  
建立年月日：不明（戦後）  
建立場所：片隈神社社殿入口  
材質：コンクリート  
法量：測定不能  
方角：南南西  
設置者：  
備考：  
銘文：

番号：48  
名称：二宮尊徳先生幼時之像



分類：記念碑  
建立年月日：1940年5月11日  
建立場所：伊平屋小学校グラウンド北側  
材質：銅及びコンクリート  
法量：(銅像) 高さ91cm 幅35cm 奥行45cm  
(台座) 高さ123cm 幅106.5cm 奥行103.7cm  
(正面の銘板) 縦37.5cm 横11.5cm  
(背面の銘板) 縦22.5cm 横14.4cm  
方角：南  
設置者：西江清次  
備考：像は1944年に金属供出のため撤去。1972年3月23日に同じ設置者により再設置。銘板は設置当時のものか不明。  
銘文：  
(正面の銘板) 二宮尊徳先生幼時之像  
(背面の銘板) 皇紀二千六百年 帰朝記念  
字我喜屋出身 寄贈者 西江清次



番号：49  
名称：思い出の塔



分類：記念碑  
建立年月日：1973年3月  
建立場所：伊平屋小学校グラウンド北側  
材質：コンクリート及び煉瓦  
法量：高さ293cm 幅229cm 奥行77cm  
方角：南  
設置者：  
備考：  
銘文：  
(正面) 思い出の塔  
(背面) 卒業記念 昭和四十八年三月建立

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：50

名称：すなおな心 百周年記念



分類：記念碑

建立年月日：不明（1981年か）

建立場所：伊平屋小学校グラウンド北側

材質：不明

法量：（全体）高さ129cm 幅94cm 奥行27cm  
（銘板）縦60cm 横35cm

方角：南

設置者：

備考：

銘文：

（正面）

すなおな心  
百周年記念

（背面）

明治14年4月1日創立 字島尻に島尻簡易小学校として開校

明治27年4月1日 簡易小学校は消滅 島尻尋常小学校として改称

明治34年12月7日 字我喜屋に移転 伊平屋尋常小学校と改称

昭和7年 鉄筋コンクリート瓦ぶき校舎建築

昭和55年 校舎全面改築

昭和56年4月1日 100周年に当る

同年6月20日に記念式典を挙る

番号：51

名称：我喜屋ダム



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1991～2004年度事業関連）

建立場所：我喜屋ダム北側

材質：不明

法量：高さ96cm 幅200cm 奥行78cm

方角：北西

設置者：

備考：

銘文：

（正面）我喜屋ダム

（背面）我喜屋ダム建設工事事業

平成3年度～平成16年度

番号：52

名称：第一尚氏始祖 屋蔵大主 陵墓



分類：標柱・標石

建立年月日：1985年1月

建立場所：我喜屋集落 海岸沿い

材質：大理石

法量：（石碑）高さ91.4cm 幅24.8cm 奥行15.1cm  
（台座）高さ24.8cm 幅52.4cm 奥行40.3cm

方角：東

設置者：月代宮奉賛会

備考：

銘文：

（正面）第一尚氏始祖 屋蔵大主 陵墓

（背面）一九八五年一月建立

月代宮奉賛会



番号：53

名称：島尻区シヌグ毛移設工事



分類：記念碑

建立年月日：2001年12月

建立場所：集落北の高台

材質：石灰岩に黒御影石の銘板か

法量：(全体) 高さ92cm 幅56cm 奥行68cm ※最大  
(銘板) 縦35cm 横30.5cm

方角：西北西

設置者：

備考：

銘文：

島尻区

シヌグ毛移設工事

ふるさと創生資金事業

平成十三年十二月吉日

番号：54

名称：名嘉千松・諸見守蔵両翁頌徳碑



分類：顕彰碑、歌碑・詩碑

建立年月日：1973年12月

建立場所：島尻公民館の敷地

材質：コンクリートの碑、白御影石の台座にコンクリートの銘板か

法量：(石碑) 高さ89cm 幅71cm 奥行9cm  
(台座) 高さ114.5cm 幅217.5cm 奥行218cm

※最大

(正面の銘板) 縦27cm 横40cm

(背面の銘板) 縦23cm 横23cm

方角：北北東

設置者：城間喜平、島尻区民一同

備考：『島尻公民館建設記念誌 島尻のあゆみ』P.33 掲載の写真「新公民館に移設された頌徳碑(平成15年1月新公民館に移設)」では、正面の銘板がない。2003年以降に付け足されたものと思われる。

銘文：

(碑文正面)

頌徳碑

(碑文背面)

島長 名嘉千松翁

自明治丁酉三十年 至明治丙午三十九年

島長

村長 諸見守蔵翁

自明治丁未四十年 至大正戊午七年

頌葉壁山里正両翁

献身村甲任 奔走不温筵

後世承餘澤 傳芳頌両賢

発起者 城間 喜平

島尻区民一同

作詩 中村 龍人

揮毫 桂邨比嘉宗一

刻字 山川 武利

この碑は島尻区民一同、村外島尻出身一同の協賛によって双翁の遺徳を称えて建設す

昭和癸丑四十八年 師走吉日

(正面の銘板)

琉歌 両翁の遺徳を肖る

伊平屋島・野甫島記念碑等集成



喜平詞

見渡<sup>ミワタ</sup>しん<sup>シル</sup>広<sup>ヒル</sup>さ  
海<sup>ウミ</sup>山<sup>ヤマ</sup>の美<sup>ツツ</sup>しや  
た<sup>チム</sup>な<sup>ツツ</sup>か<sup>ツツ</sup>島<sup>シマ</sup>尻<sup>ジリ</sup>や  
肝<sup>キム</sup>の晴<sup>ツツ</sup>しや  
遺<sup>イ</sup>徳<sup>トク</sup>船<sup>フネ</sup>造<sup>ツク</sup>くて  
望<sup>ノゾミ</sup>み<sup>ゴト</sup>ど<sup>マキ</sup>く  
船<sup>フネ</sup>や<sup>ク</sup>まい<sup>シテ</sup>  
波<sup>ナミ</sup>風<sup>カザ</sup>■■■■

(ん静か※『島尻公民館建設記念誌 島尻のあゆみ』P.33)

(背面の銘板)

古<sup>コ</sup>歌<sup>カ</sup>  
我<sup>ガ</sup>陽<sup>ヨウ</sup>と阿<sup>ア</sup>波<sup>ハ</sup>岳<sup>トク</sup>と  
た<sup>タ</sup>な<sup>ナ</sup>か<sup>カ</sup>島<sup>シマ</sup>尻<sup>ジリ</sup>や  
しま<sup>シマ</sup>う<sup>ウ</sup>つき<sup>ツキ</sup>美<sup>ミ</sup>さ  
首<sup>ウ</sup>里<sup>リ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>か<sup>カ</sup>たち。

番 号：55  
名 称：島尻区観音堂改修工事



分 類：記念碑  
建立年月日：2001年12月  
建立場所：観音堂前（島尻公民館の西）  
材 質：石灰岩に黒御影石の銘板  
法 量：(全体) 高さ100cm 幅95cm 奥行60cm ※最大  
(銘板) 縦40cm 横45cm

方 角：東南東

設 置 者：

備 考：

銘 文：

島尻区

観音堂改修工事

ふるさと創生資金事業

有限会社 世樹建設

代表取締役 仲川桂樹

平成十三年十二月吉日



番 号：56  
名 称：伊平屋村島尻の神あしあげ



分 類：標柱・標石

建立年月日：1990年3月25日

建立場所：集落内、伊平屋村島尻の神あしあげの隣

材 質：コンクリート

法 量：高さ145cm 幅25cm 奥行25cm

方 角：南南東

設 置 者：沖縄県教育委員会、伊平屋村教育委員会

備 考：

銘 文：

(正面) 県指定有形民俗文化財  
伊平屋村 島尻の神あしあげ

(左面) 平成二年三月二五日建立

(右面) 指定年月日 昭和五二年七月十一日

(背面) 沖縄県教育委員会  
伊平屋村教育委員会



## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：57  
名称：島尻区殿地



分類：記念碑  
 建立年月日：1999年12月  
 建立場所：集落内、島尻区殿地の隣  
 材質：コンクリートに黒御影石の銘板  
 法量：(全体) 高さ170cm 幅120cm 奥行60cm ※最大  
 (銘板) 縦69cm 横90cm  
 方角：南西  
 設置者：  
 備考：  
 銘文：  
 島尻区殿地  
 明治の初平家葺  
 昭和二十八年、昭和四十七年二度  
 名嘉永蔵氏により改築  
 平成十一年十一月新築  
 建築面積 三十六、四五㎡  
 設計管理 太名嘉組  
 代表取締役 名嘉 謙  
 基礎工事 伊葉開発  
 代表取締役 名嘉律夫  
 躯体内装工事 孝和土木  
 代表者 我喜屋孝  
 設備工事 仲川電設  
 代表取締役 仲川重成  
 平成十一年十二月吉日  
 記念

番号：58  
名称：島尻区神社



分類：記念碑  
 建立年月日：1999年12月  
 建立場所：集落の西側、島尻区神社  
 材質：コンクリートに黒御影石の銘板  
 法量：(全体) 高さ142cm 幅92cm 奥行39cm ※最大  
 方角：南東  
 設置者：  
 備考：  
 銘文：  
 島尻区神社  
 明治の初平屋葺  
 昭和十五年旧八月十九日建設  
 建築面積 二十一、二㎡  
 昭和五十六年葺替え  
 平成十一年十一月葺替  
 葺替工事 太名嘉組  
 代表取締役 名嘉 謙  
 平成十一年十二月吉日  
 記念

番号：59  
名称：島尻区神社鳥居



分類：鳥居  
 建立年月日：不明(戦後か)  
 建立場所：集落の西側、島尻区神社(島尻公民館の西側)  
 材質：コンクリート  
 法量：高さ343cm 幅393cm 奥行39cm ※最大  
 方角：南東  
 設置者：  
 備考：『島尻公民館建設記念誌 島尻のあゆみ』P.104掲載の  
 写真「戦後まもなくの島尻神社」には、現在同様の鳥  
 居が写っている。調査者が実物を見た際、材質に過度  
 の劣化が見られなかったことから、戦後に再建されたと  
 判断した。  
 銘文：

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：60

名称：伊平屋小学校発祥之地



分類：記念碑

建立年月日：1998年2月13日

建立場所：島尻スーパーより遊歩道沿い南西

材質：石灰岩の碑に台座は蛇紋岩を貼り付けたコンクリート

法量：(石碑) 高さ210cm 幅150cm 奥行75cm ※最大  
(台座) 高さ74cm 幅260cm 奥行160cm  
(銘板) 縦58cm 横31cm

方角：南南東

設置者：伊平屋村教育委員会

備考：

銘文：

(碑文) 伊平屋小学校

発祥之地

(銘板) 明治十四年

島尻簡易小学校として創立

企画 伊平屋村教育委員会

建立 平成十年二月十三日

番号：61

名称：島尻地区海岸保全区域



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1985年11月5日指定）

建立場所：島尻公民館の南西の海岸（岩盤の上）

材質：コンクリート

法量：高さ105cm 幅20cm 奥行15cm

方角：西北西

設置者：沖縄県

備考：

銘文：

(正面) 海岸保全区域

沖縄県⇄

(背面) 昭和五十年十一月五日指定



番号：62

名称：西島尻地区海岸保全区域



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1985年11月5日指定）

建立場所：野甫大橋北東の海岸入口

材質：コンクリート

法量：高さ95cm 幅20cm 奥行15cm

方角：東北東

設置者：沖縄県

備考：

銘文：

(正面) 海岸保全区域

沖縄県⇄

(背面) 昭和五十年十一月五日指定



## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番 号：63

名 称：コープネット美ら島応援基金記念碑



分 類：記念碑

建立年月日：不明（2010年7月1日調印）

建立場所：米崎キャンプ場入口の向かい

材 質：不明

法 量：（石碑）高さ75cm 幅166cm 奥行49cm

（台座）高さ61.5cm 幅225.5cm 奥行106cm

方 角：南東

設 置 者：

備 考：

銘 文：

コープ

ネット美ら島応援基金記念碑

伊平屋島の環境保護活動

調印団体

- ・沖縄県伊平屋村
- ・伊平屋村漁業協同組合
- ・株式会社 海産物のきむらや
- ・日本生活協同組合連合会
- ・生活協同組合連合会コープネット事業連盟

平成22年7月1日調印

番 号：64

名 称：野甫大橋開通記念碑



分 類：記念碑

建立年月日：1974年6月19日建立、2004年3月25日移設

建立場所：野甫大橋米崎キャンプ場側

材 質：碑の材質は不明、銘板は黒御影石

法 量：（石碑）高さ201cm 幅143cm 奥行43cm ※最大

（台座）高さ41cm 幅462cm 奥行464cm

（銘板）縦80cm 横80cm

方 角：北東

設 置 者：建立 伊平屋村（寄贈 株式会社屋部土建 代表者 前田裕継）

移設 伊平屋村長 西銘 真助

備 考：「御視察の祈り」は、「御視察の折り」の誤字の可能性  
があるが、本稿ではそのまま表記した。

銘 文：

（碑文）

野甫大橋開通記念碑

初代沖縄開発庁長官

山中貞則■（花押か）

（銘板）

記念碑文

野甫島は伊平屋村米崎、西方約六〇〇メートルの海上に位置し昔から離島村の離島として二重の離島苦の宿命を背負っていたため、野甫大橋の架橋は永年にわたる住民の切実なる願望でありました。そのため村では離島苦の解消並びに住民への民生安定、産業振興の一環として村の実情を県や政府に要請を重ねて来たところ、昭和四六年一月十五日山中貞則沖縄開発庁長官が現地を御視察の祈り村民あげての要請を快諾し、ただちに架橋の決断をされ、野甫大橋の実現を見たことは、伊平屋村民にとって、無上の喜びであります。ここに野甫大橋実現のため労を賜りました政府並びに県当局に対し深甚なる感謝と敬意を表し、野甫大橋が永遠に村の産業発展と生活向上に大きく寄与することを祈念いたします。

昭和五四年六月十九日 伊平屋村

寄贈 株式会社 屋部土建

代表者 前田裕継

この記念碑は、新橋の架け替えに伴い、この場所に移設建立する。

平成一六年三月二五日 伊平屋村長 西銘 真助



番号：65  
名称：末吉福吉の歌碑



分類：歌碑・詩碑  
 建立年月日：1981年2月4日  
 建立場所：野甫大橋野甫島側からジューマ海岸に続く丁字路  
 材質：チャートに黒御影石の銘板か  
 法量：(石碑) 高さ131cm 幅121cm 奥行53cm ※最大  
 (台座) 高さ4cm 幅223cm 奥行62.5cm  
 (銘板) 縦56cm 横80cm  
 方角：南南東  
 設置者：  
 備考：  
 銘文：  
 世代のある間  
 栄る野甫島  
 真南向かつて見れば  
 城前なち  
 島に生まれやい  
 御恩忘れゆみ  
 たきほどになやい  
 御恩さびら  
 読人  
 末吉福吉  
 昭和五十六年二月四日建立

番号：66  
名称：ハンタ毛節



分類：歌碑・詩碑、顕彰碑  
 建立年月日：2013年3月23日  
 建立場所：ハンタ毛(野甫売店の北東)  
 材質：黒御影石の碑と銘板に石灰岩の台座か  
 法量：(全体) 高さ185cm 幅234cm 奥行65cm ※最大  
 (銘板) 縦50cm 横130cm  
 方角：北北西  
 設置者：ハンタ毛節歌碑建立実行委員会  
 会長(伊平屋村長) 伊礼幸雄  
 野甫区長 西銘敏安

備考：  
 銘文：  
 (碑正面)

ハンタ毛節  
 作詞作曲 中本正義

- 一、ハンタ毛の月や  
 月影ん美らさ  
 でちやようし連りて  
 眺みやい遊しば  
 四方の景色の美らさ  
 (嘸) でちや早くな  
 ドンミカセー  
 野甫の島や  
 バチクワイヤサ
- (碑背面)
- 二、真志川渡ん舟根ん朝風と夕風  
 傳馬機械かきて思みなしば一足  
 いもり互に語たら
- 三、ウフマ弁戸ゆ通ゆて水波だし昔  
 今やタンク水し朝お茶や花の香  
 じんとう香いのかばさ
- 四、新道ん出来て原の行ち戻い  
 青年た乙女たやうち笑い笑い  
 志情ん深かさ
- 五、陸稲花咲かち黄金波立てて  
 満作ゆすらばミルク世や何時ん  
 互に暮らす嬉りき



## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成



六、風力発電の風車の美らさ  
 電灯明かあかと文化世やあきて  
 じんとう昼のぐとき

(銘板)

顕彰

本村野甫区の風光明美な情景を讃えた「ハンタ毛節」の作詞作曲者で知られる中本正義先生は、明治三十一年五月三十日沖縄県伊是名村にお生まれになり、大正五年沖縄師範学校を卒業されて以降、四十七年間の永きに渡り沖縄の教育界でご活躍なされ、そのご教導にあずかった教え子は、沖縄県内外で政治、経済、教育等その他あらゆる分野で活躍している。

本村では伊平屋中学校にて三年間、野甫小中学校にて六年間、校長職として教鞭を執り、本村の教育振興にご尽力されるとともに、文化活動においても類い希なる才能を遺憾なく発揮されハンタ毛節をはじめ、伊平屋小学校校歌、野甫小中学校校歌等、実に多くの歌を作詞、作曲されている。

昭和四十七年四月二十九日、その長年に渡る功績が認められ従七位勲五等雙光旭日章が授与された。

伊平屋村民は、本村の教育、文化振興に多大なる貢献をなされた中本正義先生に報恩の誠を捧げ未永く後世にその功績を顕彰するため、ここにハンタ毛節の歌碑を建立するものであります。

平成二十五年三月二十三日

ハンタ毛節歌碑建立実行委員会

会長(伊平屋村長) 伊礼幸雄

野甫区長 西銘敏安

番号：67  
 名称：辯之神社鳥居



分類：鳥居

建立年月日：不明(2001年より後か)

建立場所：辯之神社(野甫売店の西)

材質：コンクリート

法量：高さ380cm 幅444cm 奥行30cm ※最大

方角：南南東

設置者：

備考：2001年に発行された『伊平屋村伝説遺跡』P.119に掲載されている写真とは鳥居が変わっている。

銘文：

番号：68  
 名称：野甫港



分類：標柱・標石

建立年月日：2012年3月

建立場所：野甫港

材質：石灰岩に黒御影石の銘板

法量：(全体) 高さ105cm 幅176cm 奥行65cm  
 (銘板) 縦18cm 横25cm

方角：西

設置者：沖縄県

備考：

銘文：

(碑文)

(沖縄県章) 野甫港

(銘板)

平成24年3月

沖縄県

筆 東江章喜

野甫小中学校平成23年度卒

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：69  
名称：雲の塔



分類：慰霊碑  
建立年月日：1988年  
建立場所：ゲンサナ森、飯井敏雄宅（野甫小中学校の北）  
材質：碑の材質は不明、赤御影石の台座  
法量：(全体) 高さ約300cm 幅200cm 奥行230cm  
方角：南東  
設置者：飯井敏雄  
備考：桜に綻の紋が記された銘板と、12体の特攻隊員と思われる像がある。

銘文：  
(碑文)  
雲ながるる果てに  
(台座背面)  
一九八八年建立



番号：70  
名称：古川正崇の歌碑



分類：慰霊碑、歌碑・詩碑  
建立年月日：不明（1988年以降）  
建立場所：ゲンサナ森、飯井敏雄宅（野甫小中学校の北）  
材質：コンクリートに正面は黒御影石の銘板、背面は金属の銘板  
法量：(全体) 高さ121cm 幅100cm 奥行55cm  
(正面の銘板) 縦60cm 横80cm  
(背面の銘板) 縦39cm 横59cm

方角：南東  
設置者：飯井敏雄  
備考：

銘文：  
(正面の銘板)

雲湧きて  
流るゝはての青空の  
その青の上  
我が死にどころ  
昭和十六年七月七日 正崇@

(背面の銘板)

大阪外語出身の古川正崇君はこの歌を残し 昭和十八年九月海軍飛行予備学生となり 昭和二十年五月沖縄の海に特攻散華しました

この歌は学徒出身の海軍飛行塔乗員の心を代表するものとして 戦後白鷗遺族会（旧海軍飛行予備学生と遺族の会）発行の遺稿集は「雲ながるる果てに」の書名になりました

遺稿集の心で建立した「雲の塔」も同じ題に致しました

飯井敏雄





伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：71  
 名称：命どう宝



分類：慰霊碑、歌碑・詩碑  
 建立年月日：1990年  
 建立場所：グンサナ森、飯井敏雄宅（野甫小中学校北）  
 材質：コンクリートに正面は黒御影石の銘板、背面は金属の銘板  
 法量：（全体）高さ120cm 幅110cm 奥行55cm  
 （正面の銘板）縦50cm 横100cm  
 （背面の銘板）縦39cm 横59cm

方角：南東  
 設置者：飯井敏雄  
 備考：  
 銘文：

（正面の銘板）  
 命どう宝  
 一九四五年  
 日本は戦争に敗れました  
 健康で 英知に富む  
 若者たちは  
 海軍航空隊を志願し  
 散ってゆきました  
 彼らは  
 自分の未来に  
 何を夢見たでしょうか  
 日本の未来に  
 何を夢見たでしょうか  
 地球の未来に  
 何を夢見たでしょう  
 一九九〇年 飯井敏雄

（背面の銘板）  
 太平洋戦争の最後の激戦となった沖縄戦における海軍航空隊の攻撃は殆ど特別攻撃という悲惨なものでした  
 目の前の美しい大海原には輝かしい希望も 尊い命も自ら絶って散華された当時の若人達がねむっています  
 愛する人 愛する故郷の山河をこよなく思う御霊の心の抛りどころとして旧海軍航空関係者有志の至情を結集して「雲の塔」を建立しました

飯井敏雄

番号：72  
 名称：師弟同行



分類：記念碑  
 建立年月日：1999年11月28日  
 建立場所：野甫小中学校校庭  
 材質：不明  
 法量：高さ155cm 幅75cm 奥行77cm  
 方角：北北東  
 設置者：野甫小中学校五十周年記念期成会一同  
 銘文：

（正面）  
 師弟 同行  
 （背面）  
 師弟同行は  
 本校がめざす  
 学校像である  
 平成十一年十一月二八日建立  
 野甫小中学校五十周年記念  
 期成会一同

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番号：73  
名称：命どう宝



分類：歌碑・詩碑  
 建立年月日：不明（戦後）  
 建立場所：野甫小中学校校庭  
 材質：チャートか  
 法量：高さ55cm 幅135cm 奥行90cm  
 方角：北北東  
 設置者：  
 銘文：  
 校歌

作詞／作曲中本 正義

- 一 のぼるあさひのか■■■ (げうけ) て  
 ながめ■ (う) るわし具志川渡  
 みどりのおかのまなびやに  
 文化の花はさきかおる  
 希望はおどるわが母校
- 二 グンサナ森に日ははえて  
 真理の道をきわめつつ  
 まごころこめて元気よく  
 はげむわれらのこのつどい  
 理想は高しわが母校
- 三 あける世紀のかねの音  
 わかさ血しおにはつらつと  
 しおのかほりにはばたきて  
 いざやたなん野甫健児  
 ■ (え) い■ (ち) はひろしわが母校

番号：74  
名称：師弟同行



分類：記念碑  
 建立年月日：1982年7月2日  
 建立場所：野甫小中学校  
 材質：コンクリートの門柱、銘板は不明  
 法量：(門柱) 高さ110cm 横56cm 奥行56cm  
 (銘板) 縦40cm 横20cm  
 方角：南南東（門の向き。銘板は北北西向き）  
 設置者：野甫小中学校新地区記念事業期成会  
 備考：  
 銘文：  
 寄贈  
 野甫小中学校  
 新地区記念事業期成会  
 昭和五十七年七月二日

## 伊平屋島・野甫島記念碑等集成

番 号：75

名 称：御産土井戸ノ起源



分 類：説明板、歌碑・詩碑

建立年月日：1977年

建立場所：ウフマーガー（野甫小中学校南西）

材 質：不明

法 量：高さ43.5cm 幅33cm 奥行11cm

方 角：東

設 置 者：城間喜平、与那覇セツ子

備 考：

銘 文：

（正面）

贈

ウフマーガー

御産土井戸ノ起源

西暦三二六年丙戌冬十一日

一、尚福王景泰三年壬申

西暦一四五二年井戸命名

二、助成金デ整備

西暦一九四九年己丑

ウタ ウフマーガーユカユテ

ミジクダシユカシ

（背面）

昭和五十二年己卯ノ吉日

城間喜平

与那覇セツ子

